

農家人口、農業労働力のコーホート分析 －1960年から2010年まで半世紀の変化－

大 賀 圭 治

目 次

はじめに ー背景と課題ー

1. コーホート分析と農家人口、農業労働力データ
 - (1) 農家人口、農業労働力のコーホート分析
 - (2) 農林業センサス累年統計の農家人口と農業労働力
 - (3) 年齢階層別集計値から5歳階級別農家人口の推計
2. 高度経済成長期の農家人口、農業労働力の変化－1960～1985年－
 - (1) 1960年から1985年への農家人口と農業労働力の変化
 - (2) 標準コーホート表とコーホート変化率で見る変化
 - (3) 1960年～1985年の出生、死亡、社会的（就業状態）移動
3. 経済成長停滞期の農家人口、農業労働力の変化－1985～2010－
 - (1) 1985年から2010年への農家人口と農業労働力の変化
 - (2) 1985年～2010年の出生、死亡、社会的（就業状態）移動
 - (3) 2025年、2040年の農家人口、農家労働力の暫定将来推計

おわりに ーまとめと今後の課題ー

はじめに ー背景と課題ー

日本の農業労働力の根幹を支える基幹的農業従事者の平均年齢は67歳で、65歳以上の比率は63%に達しており、日本の農業はいまや老人産業と言っても過言ではない状況にある。基幹的農業従事者数は1960年の1,175万人から2014年の168万人へと54年の間に7分の1に激減しただけではない。その年齢構成を見ると、基幹的農業労働者のうち60歳以上が1960年の14%から78%へと高齢者が圧倒的な比率を占めるに至っている。

すでに60歳を過ぎた高齢者は、今後20～30年の間には農業からも、リタイア、死亡によって離脱することは自然の摂理である。新規就農者や他産業からの帰

農者の増加などの変動はあろうが、数十年の時間単位の人口変動の傾向を変えることはできない。日本の農業労働力については日本の農業構造は、今後、TPP交渉妥結の影響など外部の経済情勢の如何に関わらず、過去半世紀の激動期以上の速度で変化するのではないかと予感される。

本稿は以上のような認識を背景として、日本の農家人口、農業労働力について、コーホート分析の考え方に沿って、過去半世紀の変動を分析する。

本稿では一般的な用語として「農家人口」を用い、農林業センサスの「農家世帯員数」を「農家人口」の統計として使っている。

第1章では農業センサスデータを用いて長期的人口現象を分析するための方法としてコーホート分析を紹介する。第2章では、1960年(昭和35年)と1985年(昭和60年)の日本経済の高度成長期の農家人口、農業労働力の変化について統計データを基に概観するとともに、これを視覚的にとらえるための農家人口ピラミッドを示す。次に、農業従事状態のセンサスデータを用いて、コーホート分析の考え方に沿って、変化の特徴を明らかにする。第3章では1985年(昭和60年)から2010年(平成22年)までの、1990年のバブル崩壊を挟んだ日本経済の停滞期の農家人口、農業労働力の変化について分析する。

最後に農家人口、農業労働力の変動分析を総括し、今後の課題について考察する。

1. コーホート分析と農家人口、農業労働力データ

第1章では第1節で農業労働力のコーホート分析の先行研究として梶井〔1〕を紹介するとともにコーホート分析の基礎概念としての標準コーホート表とコーホート変化率表を説明する。第2節では、データとして「農林業センサス」の農家世帯員数、農業従事者を用いた理由を説明し、第3節では今回のコーホート分析に不可欠な5歳年齢階級別のデータの部分的欠落の推計方法を説明する。

(1) 農家人口、農業労働力のコーホート分析

日本の1960年(昭和35年)の農業センサスによると、15-19歳の年齢階級に入る男子の基幹的農業従事者は3.8万人であった。この全員がその後の5年間も基

幹的農業従事者であったとすると、5年後の1965年(昭和40年)では、この3.8万人から5年間に死んだ人数を差し引いた人数が20-24歳の年齢階級に入る基幹的農業従事者となるはずである。しかし、死亡以外に、この5年の間にこの人達のうちで農業をやめたものがいたり、あるいは1960年には農業以外の産業についていた人で、この5年の間に農業に従事するようになった者がいたりすると1965年の基幹的農業者の実際の数はあるはずの基幹的農業者の数とは食い違ってくる。実際の調査で把握された人数が予想値より大きければ、その差だけ5年間にこの年齢階級の人で新たに基幹的農業就業者になった人がやめた人より多かったことになる。逆に予想値の方が大であれば、その差は新たに基幹的農業者となった者を上回る農外就業の超過数を示すことになる¹⁾。

梶井功教授は、コーホート分析といわれるこのような方法を、アメリカのトイバー女史による日本の農業人口について農業以外の産業とどういう流出入の関係を持っていたかを分析した研究を紹介している(梶井 [1]、I. B. トイバー [2])。

コーホート分析の基礎概念について、以下N. D. グレン [3] によって基礎概念の概略を説明する。

コーホートという用語は、語源的には古代ローマの軍団をさし、一般的には仲間、同士、同僚の意味で用いられ、集合的には群れ、集団を指すのに使われる。こうした用法を基に、人口統計学ではコーホートは、「地理的にもしくは他の何らかの方法で画された全住民のうちで、一定の時期に人生における重大な出来事を体験した人びと」と定義されている。「一定の時期に人生における重大な出来事」として多くの場合出生が考慮されるが、この場合のコーホートは出生コーホートといわれる。

コーホート分析は一つ以上のコーホートについて、何らかの現象に、二時点以上の測定値について比較する研究である。典型的なコーホート分析では二つ以上のコーホートの特定の現象について趨勢に関するデータの分析とともに共時的な、すなわち横断的なコーホートの比較も行われる。すなわち調査時点の異なる複数のデータセットが併記されており、かつ、データセット相互間の調査時点の間隔が出生コーホートの年齢区分の幅と一致しているような表を標準コーホート表とよぶ。年齢区分を縦(表側)にとり、調査時点を行(表頭)に配

した標準コーホート表では同一時点におけるコーホート間の比較を行うには各列を縦に比較すればよいし、コーホート内の趨勢を見るには左上から右下に斜めに比較すればよい。さらに、年齢段階ごとにコーホート間でどのような違いがあるかを見るには、行ごとに横に比較すればよい。こうした分析の具体的な例は次章以下の分析に示している。

標準コーホート表における変化はその原因が何であるかによって3種類の効果に分類される。すなわち、年齢効果とコーホート効果と時代効果である。年齢効果は加齢の影響によって生じた効果であり、コーホート効果はコーホート成員であることが原因となって生じた効果であり、時代効果は、各調査時期に固有の影響によって生じた効果である。しかし、コーホート表を吟味し統計的に分析してみてもこれらの三つの効果を必ずしも区別できるわけではない²⁾。このため、本稿の分析では、年齢効果は死亡や学卒時の就業状況、結婚適齢期、出産、育児期、定年退職期などの影響に着目し、コーホート効果は、出生時期の状況に規定された出生数などに着目し、時代効果は経済成長の変化などの時代背景に着目した一般的な知見に基づいた定性的な分析にとどめている。

日本におけるコーホート分析は、農業、食料経済分野でのコーホート分析は、森島〔4〕、森〔5〕、石橋〔6〕など、家計調査の世帯主年齢階層別データを用いた食料需要、食料消費の分析に集中している。農業関連の人口については、農村地域市町村の将来人口予測を試みた松久〔7〕の研究にとどまり、梶井〔1〕を引きついで農家人口、農業労働力の研究は途絶えている。

(2) 農林業センサス累年統計の農家人口と農業労働力

本稿で分析の対象とするデータは、農業センサス累年統計で公表されている農家人口として農家世帯員数、農業労働力として農業従事者と基幹的農業従事者である。なお、農家人口の標準コーホート表を作成するために国勢調査の5歳階級別人口を補完的に利用している。

前節で紹介した梶井〔1〕の農業労働力の分析は、要約が紹介されているトイバー女史〔2〕の分析を含め、国勢調査の「農業就業者」をデータとしている。この研究との比較や農業と他産業の就業者との関連からは、農業労働力の分析には、国勢調査の農業就業人口を対象にコーホート分析を行うことが考えられ

る。国勢調査では男女それぞれ5歳階級区分ごとの農業就業人口が累年統計として公表されている（内閣府統計局 政府統計の総合窓口e-STAT [8]）。しかし、本稿の分析では、以下の理由によって、農家人口と農業労働力のデータとして、国勢調査の農業就業人口ではなく、農家世帯員数、農業従事者、基幹的農業従事者の年齢階級別データを分析対象とした。これら農業センサスデータの累年統計も、上記の内閣府統計局のポータルサイトに公表されており、容易にダウンロードできる。

農家世帯員数を分析対象として加えたのは、日本の農業労働力の移動が主として農家世帯内での就業の移動、つまり農家世帯内にとどまったまま就業先を変える場合が多いと見られるためである。他産業の就業が主である場合でも、週末や農繁期に農業にも従事し、他産業からリタイアした後には農業を主とする退職就農に回帰する場合も多い。農家世帯内の就業移動は、中学、高校の新卒生を除き、農業労働力の移動の大部分を占め、農家「兼業化」として特徴付けられている³⁾。

日本では農業労働力として、農業就業人口のうち主として仕事に従事する「基幹的農業従事者」を主たる分析対象とした。国勢調査の農業就業人口は調査期日(10月1日)の直前9月末の1週間の調査期間中に収入を伴う仕事をした就業者のうち農業に従事した者とされ、家事、通学のかたわら仕事に従事した者や休業者も含んでいる。

農業センサスでの「農業就業人口」とは、15歳以上の農家世帯員のうち、調査期日(2月1日)前1年間に農業のみに従事した者、または農業と兼業の双方に従事したが、農業の従事日数の方が多い者とされ、「基幹的農業従事者」とは、農業就業人口のうち、ふだんの主な状態が「仕事为主」の者であり、本稿の分析対象として適確と考えた。「農業従事者」は基幹的農業従事者や農業就業者より広く家事、通学のかたわら仕事に従事する者や、他産業従事を主にしつつ農業にも従事する者も含んでいる。基幹的農業従事者以外の副業的あるいは兼業的な農業従事者も家族経営では重要な農業労働力であり、本稿では基幹的農業者以外の「その他の農業従事者」も分析の対象としている。農業では他産業に就業しながら兼業として農業に従事する者や、主として家事、育児や学業に従事しながら農業にも従事する者が多く、かつ農業労働において重要な役割を果

たしているためである。

表1-2-1に国勢調査の農業就業人口と農林業センサスの農業従事者、農業就業人口、基幹的農業従事者数を男女別に示した。1960年の農業センサスの基幹的農業従事者1,175万人は同年の国勢調査の農業就業人口1,312万の90%、農業センサスの農業就業人口1,454万人の81%であった。2010年の農業センサスの基幹的農業従事者205万人は同年の国勢調査の農業就業人口221万人の93%、農業センサスの「販売農家」農業就業人口261万人の79%であり、おおむね国勢調査の農業就業人口に対応すると考えられる。

1960年には15歳以上の農家世帯員数2,343万人のうち、農業従事者は1,766万人で、うち基幹的農業従事者の1,175万人に対し、「その他の農業従事者」が591万人と農業従事者の33%を占めている（表2-1-1、表2-1-2）。2010年では15歳以上の農家世帯員数589万人のうち、農業従事者は454万人で、うち基幹的農業従事者が205万人に対し、その他の農業従事者249万人と農業従事者の55%である（表3-1-1、表3-1-2）。

以上の農家世帯員数、農業従事者、基幹的農業従事者のデータも、内閣府統計局のポータルサイトの累年統計からダウンロードにより利用できる。

表1-2-1 国勢調査の農業就業人口と農林業センサスの農業従事者、基幹的農業従事者 農業就業人口

| | | | 実数（千人） | | | 国勢調査を100とする指数 | | |
|------|-------------------|----------|--------|-------|--------|---------------|-----|-----|
| | | | 男 | 女 | 合計 | 男 | 女 | 合計 |
| 1960 | 国勢調査 | 農業就業人口 | 6,081 | 7,188 | 13,269 | 100 | 100 | 100 |
| | | 農業従事者 | 8,508 | 9,147 | 17,655 | 140 | 127 | 133 |
| | 農林業センサス | 農業就業人口 | 5,995 | 8,546 | 14,542 | 99 | 119 | 110 |
| | | 基幹的農業従事者 | 5,515 | 6,235 | 11,750 | 91 | 87 | 89 |
| 1985 | 国勢調査 | 農業就業人口 | 2,482 | 2,369 | 4,851 | 100 | 100 | 100 |
| | 農林業センサス (旧農家) | 農業従事者 | 6,031 | 5,597 | 11,628 | 243 | 236 | 240 |
| | | 農業就業人口 | 2,478 | 3,885 | 6,363 | 100 | 164 | 131 |
| | | 基幹的農業従事者 | 1,870 | 1,826 | 3,696 | 75 | 77 | 76 |
| | 農林業センサス (販売農家) | 農業従事者 | 4,910 | 4,517 | 9,427 | 198 | 191 | 194 |
| | | 農業就業人口 | 2,202 | 3,227 | 5,428 | 89 | 136 | 112 |
| | | 基幹的農業従事者 | 1,762 | 1,703 | 3,465 | 71 | 72 | 71 |
| 2010 | 国勢調査 | 農業就業人口 | 1,311 | 894 | 2,205 | 100 | 100 | 100 |
| | 農林業センサス (販売農家) | 農業従事者 | 2,434 | 2,102 | 4,536 | 186 | 235 | 206 |
| | | 農業就業人口 | 1,306 | 1,300 | 2,606 | 100 | 145 | 118 |
| | | 基幹的農業従事者 | 1,148 | 903 | 2,051 | 88 | 101 | 93 |

(出所) 内閣府統計局 政府統計の総合窓口e-STAT
<http://www.e-stat.go.jp/SGL/estat/eStatTopPortal.do>
 国勢調査 累年統計、および農林業センサス 累年統計

(3) 年齢階層別集計値から5歳階級別農家人口の推計

農業センサス結果に基づく農家人口(農家世帯員数)、農業従事者、基幹的農業従事者のコーホート分析は、国勢調査の農業就業人口に基づく分析よりも農業労働力の特性を把握するために適切と思われる。しかし、難点として、公表されたデータでは年齢階級区分が必ずしも5歳階級区分になっていないという問題がある。

表1-3-1に農業センサス累年統計で示されている農家世帯員、農業従事者及び基幹的農業従事者の年齢区分を示している。この表からわかるように1960年は、農家世帯員は14歳以下、15-19歳、20歳から59歳までは10歳刻み、60-64歳、65歳以上と7区分されていたが、1965、1970、1975年には、64歳まで5歳刻みの合計12の年齢区分で示され、1980、1985、1990年には70歳まで、1995、2000年には75歳まで、2005年と2010年は85歳まで5歳刻みで16区分となっている。農業従事者は1960年には15-59歳と60歳以上の2区分でしか示されていなかったが、1965年には15-29歳、30-59歳、60歳以上の3区分、1970、1975、1980年には5区分、1985、1990年におおむね10歳刻みで7区分となり、1995、2000年に74歳まで5歳刻みの13区分、2005年と2010年には84歳まで5歳刻みと85歳以上と合

表1-3-1 農業センサス累年統計表の年齢区分

| | 1960 | | | 1965 | | 1970 | | 1975 | | | 1980 | | | 1985 1990 | | | 1995 2000 | | 2005 2010 |
|-------|------|----|----|------|----------|------|----------|------|----|----|------|----|----|-----------|----|----|-----------|----|----------------|
| | 世帯 | 農従 | 基幹 | 世帯 | 農従 基幹 | 世帯 | 農従 基幹 | 世帯 | 農従 | 基幹 | 世帯 | 農従 | 基幹 | 世帯 | 農従 | 基幹 | 世帯 農従 | 基幹 | 世帯 農従 基幹 |
| 総 数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0～4 歳 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5～9 | | 無 | 無 | | 無 | | 無 | | 無 | 無 | | 無 | 無 | | 無 | 無 | | 無 | |
| 10～14 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15～19 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 20～24 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 25～29 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 30～34 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 35～39 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 40～44 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 45～49 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 50～54 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 55～59 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 60～64 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 65～69 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 70～74 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 75～79 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 80～84 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 85～89 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 90歳以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

出所：公表されている農林業センサス累年統計から筆者が整理

注1. 表頭の世帯は農家世帯員、農従は農業従事者、基幹は基幹的農業従事者を表す。

注2. 罫線のある年齢区分の集計値が公表されていることを示している。

注3：0-14歳は、全ての年次で農家世帯員のみであり、農業従事者と基幹的農業従事者について無である。

わせて、15歳以上について15区分とようやく農家世帯員と同じ年齢区分で示されることとなった。

このように農業センサスの農家人口、農業従事者、基幹的農業従事者の2005年までのデータは年齢区分が年次によって大幅に異なっており、コーホート分析をするためには、年齢刻みを5歳階級に統一したデータとするための推計が必要となる。

本稿では以下の手順で各年次の5歳階級別の農業世帯員、農業従事者、基幹的従事者の推定をした。

農業世帯員については、各年次の農業センサスの公表されている男女別年齢階級別の人数について、その5歳階級別の内訳を、同一年次の国勢調査の対応する年齢階級人口の内訳となる5歳階級別人口の割合で案分する。

このようにして推計された農業世帯員数は、全年次の14歳以下の0-4歳、5-9歳、10-14歳の推計、1960年の20-29歳、30-39歳、40-49歳、50-59歳のそれぞれの5歳階級別の推計、および1965年以降すべての年次の公表された最高年齢階級の94歳までの5歳階級別と90歳以上の農家世帯員であり、推計された農家世帯員は主として14以下の5歳階級別と高年齢階級の5歳階級別の農家世帯員数である。

農業従事者と基幹的農業従事者については、まず男女別全年次90歳以上の者は0人と想定し、2005、2010年の85歳以上の人数はすべて85-89歳と想定した。2005年より前の男女別5歳階級別の人数は、2005年から順次古い年次に遡って、コーホート分析の考え方を逆方向で適用して推計を行う。すなわち推計年次の公表された年齢階級に対応する後年次の既知あるいは推計された5歳年上の年齢階級の合計値に対する内訳の構成比で案分する。このようにして推計された男女別5歳年齢階級別の農業従事者と基幹的農業従事者の推計値は公表された集計値の年齢階級の幅が大きくなるほど推計誤差が大きくなり、ごくまれではあるが、推計された農業従事者数がわずかであるが農家世帯員数を上回り、あるいは基幹的農業従事者が農業従事者を上回る場合があったが、公表された合計人数を維持しつつ、前後の年次で適宜調整した。

2. 高度経済成長期の農家人口、農業労働力変化 －1960年から1985年まで－

第2章では、第1節で1960年(昭和35年)から1985年(昭和60年)までの日本経済の高度成長期の農家人口、農業労働力の変化を概観する。第2節ではコーホート分析の基礎となる標準コーホート表とコーホート変化率表を示す。第3節では、コーホート分析の考え方に沿って、農家人口、農業労働力の変化の要因と特徴を明らかにする。

(1) 1960年から1985年への農家人口と農業労働力の変化

国勢調査ベースの日本の農業就業人口は、明治以来、第2次大戦までの長い間1400万人という水準を保ってきた。この間総就業人口は増加してきたので総就業人口の中では農業就業人口の比率は低下してきたが、就業者数としてはほぼコンスタントであった。戦後この農業就業者数は、敗戦による大量の帰農者によって急増するが、1950年(昭和25年)以降工業の復興に伴う労働力の吸引により、縮小に向かい1960年にはほぼ戦前の状況に戻ったことが確認されている(梶井〔1〕)。

日本の農家人口と農業労働力は1960年以降の高度経済成長の過程でどう変化したのか。表2-1-1に男子、表2-1-2に女子について1960年および1985年の年齢5歳階級別の農家人口、農業労働力とその変化を示している。また、1960年と1985年の男女別、就業状態別人口とその変化を視覚的に見るため、以上の二つの表を基にして、図2-1-1に1960年の農家人口ピラミッドを、図2-1-2に1985年の農家人口ピラミッドを示している。

1960年から1985年の25年間の変化の特徴として、第1に、男子は農家世帯員総数が1,679万人から966万人へと713万人減少(1960年の42%減)、基幹的農業従事者が552万人から187万人へ365万人減少し(66%減)、女子は世帯員総数が1,762万人から1,018万人へ744万人減少(男子と同率の42%減)、基幹的農業従事者が624万人から183万人へ441万人減少(71%減)と激減している。特に男女とも基幹的農業従事者の減少が著しく、女子の減少が男子を上回り、基幹的労働者の女子比率は53%から49%へと低下したが、1985年でも基幹的農業従事者と

表2-1-1 1960年、1985年 農家（旧定義）人口、農業労働力 男

単位：千人、%

| | 1960 | | | | 1985 | | | | 1985-1960増減 | | | |
|--------|--------|----------|-----------|-----------|-------|----------|-----------|-----------|-------------|----------|-----------|-----------|
| | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 |
| 0～4 歳 | 1,560 | 0 | 0 | 1,560 | 525 | 0 | 0 | 525 | -1,035 | 0 | 0 | -1,035 |
| 5～9 | 1,827 | 0 | 0 | 1,827 | 601 | 0 | 0 | 601 | -1,226 | 0 | 0 | -1,226 |
| 10～14 | 2,174 | 0 | 0 | 2,174 | 707 | 0 | 0 | 707 | -1,467 | 0 | 0 | -1,467 |
| 15～19 | 1,667 | 38 | 347 | 1,282 | 596 | 4 | 170 | 421 | -1,072 | -34 | -177 | -861 |
| 20～24 | 1,224 | 401 | 372 | 451 | 540 | 34 | 216 | 290 | -684 | -367 | -156 | -161 |
| 25～29 | 1,215 | 502 | 608 | 104 | 627 | 57 | 326 | 244 | -587 | -445 | -282 | 140 |
| 30～34 | 1,186 | 587 | 466 | 132 | 699 | 98 | 494 | 107 | -487 | -489 | 28 | -25 |
| 35～39 | 874 | 632 | 207 | 35 | 656 | 102 | 407 | 148 | -218 | -531 | 200 | 113 |
| 40～44 | 783 | 569 | 199 | 16 | 511 | 103 | 370 | 39 | -272 | -466 | 171 | 23 |
| 45～49 | 777 | 582 | 168 | 26 | 583 | 144 | 392 | 47 | -194 | -438 | 224 | 20 |
| 50～54 | 824 | 563 | 137 | 124 | 744 | 222 | 492 | 30 | -80 | -341 | 355 | -94 |
| 55～59 | 728 | 583 | 31 | 114 | 794 | 300 | 449 | 46 | 66 | -283 | 418 | -68 |
| 60～64 | 682 | 397 | 141 | 145 | 621 | 303 | 282 | 36 | -61 | -94 | 141 | -109 |
| 65～69 | 562 | 315 | 136 | 111 | 480 | 241 | 191 | 48 | -82 | -75 | 55 | -63 |
| 70～74 | 379 | 207 | 82 | 90 | 443 | 154 | 210 | 80 | 64 | -53 | 128 | -10 |
| 75～79 | 206 | 96 | 58 | 52 | 300 | 73 | 93 | 134 | 94 | -23 | 34 | 82 |
| 80～84 | 93 | 37 | 34 | 22 | 160 | 28 | 48 | 84 | 67 | -9 | 14 | 62 |
| 85～89 | 26 | 5 | 8 | 13 | 60 | 8 | 22 | 30 | 34 | 3 | 14 | 17 |
| 90歳以上 | 5 | 0 | 0 | 5 | 16 | 0 | 0 | 16 | 11 | 0 | 0 | 11 |
| 合計 | 16,793 | 5,515 | 2,994 | 8,284 | 9,662 | 1,870 | 4,161 | 3,631 | -7,130 | -3,645 | 1,168 | -4,653 |
| 0～14 歳 | 5,561 | 0 | 0 | 5,561 | 1,832 | 0 | 0 | 1,832 | -3,729 | 0 | 0 | -3,729 |
| 15～39歳 | 6,166 | 2,160 | 2,001 | 2,005 | 3,118 | 294 | 1,613 | 1,211 | -3,048 | -1,866 | -387 | -794 |
| 40～59 | 3,112 | 2,297 | 535 | 280 | 2,633 | 769 | 1,704 | 160 | -479 | -1,529 | 1,169 | -119 |
| 60歳以上 | 1,954 | 1,058 | 458 | 438 | 2,079 | 807 | 845 | 427 | 125 | -250 | 386 | -11 |
| 構成比 I | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 0～14 歳 | 33 | 0 | 0 | 67 | 19 | 0 | 0 | 50 | 52 | 0 | 0 | 80 |
| 15～39 | 37 | 39 | 67 | 24 | 32 | 16 | 39 | 33 | 43 | 51 | -33 | 17 |
| 40～59 | 19 | 42 | 18 | 3 | 27 | 41 | 41 | 4 | 7 | 42 | 100 | 3 |
| 60歳以上 | 12 | 19 | 15 | 5 | 22 | 43 | 20 | 12 | -2 | 7 | 33 | 0 |
| 構成比 II | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 100 | 33 | 18 | 49 | 100 | 19 | 43 | 38 | 100 | 51 | -16 | 65 |
| 0～14 歳 | 100 | 0 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 100 |
| 15～39 | 100 | 35 | 32 | 33 | 100 | 9 | 52 | 39 | 100 | 61 | 13 | 26 |
| 40～59 | 100 | 74 | 17 | 9 | 100 | 29 | 65 | 6 | 100 | 319 | -244 | 25 |
| 60歳以上 | 100 | 54 | 23 | 22 | 100 | 39 | 41 | 21 | 100 | -200 | 309 | -9 |

出所： 農林業センサス 累年統計

注：1960年には沖縄を含まない

しては男女半々となっている。

農家世帯員数を年齢階層別に見ると、男女とも他産業の定年年齢の60歳未満の全階層で流出超過となり、60歳以上の比率が男子は12%から、1985年には22%へと上昇し、女子も13%から27%と倍以上に上昇した。1960年の年齢階層別農家世帯員数では10-14歳が男女とも他の5歳階級を大幅に上回っている。しかし、1985年になると他の5歳階級の世帯員数と際違って人数が多くはなくなっている。この年齢階層はいわゆる戦後ベビーブーマー世代(1960年では10-14歳、1985年で35-39歳)であるが、1960年から1985年高度経済成長期に農外流出をリードしたのがこの層であったことが伺われる。

表2-1-2 1960年、1985年 農家（旧定義）人口、農業労働力 女

単位：千人、%

| | 1960 | | | | 1985 | | | | 1960-1985増減 | | | |
|--------|--------|----------|-----------|-----------|--------|----------|-----------|-----------|-------------|----------|-----------|-----------|
| | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 |
| 0~4 歳 | 1,516 | 0 | 0 | 1,516 | 509 | 0 | 0 | 509 | -1,007 | 0 | 0 | -1,007 |
| 5~9 | 1,780 | 0 | 0 | 1,780 | 582 | 0 | 0 | 582 | -1,198 | 0 | 0 | -1,198 |
| 10~14 | 2,124 | 0 | 0 | 2,124 | 685 | 0 | 0 | 685 | -1,439 | 0 | 0 | -1,439 |
| 15~19 | 1,625 | 19 | 365 | 1,241 | 562 | 1 | 105 | 457 | -1,063 | -18 | -260 | -784 |
| 20~24 | 1,265 | 703 | 271 | 291 | 547 | 13 | 120 | 414 | -718 | -690 | -151 | 123 |
| 25~29 | 1,241 | 1,006 | 111 | 124 | 558 | 38 | 177 | 343 | -684 | -968 | 66 | 219 |
| 30~34 | 1,215 | 1,137 | 47 | 30 | 616 | 99 | 249 | 268 | -599 | -1,038 | 202 | 237 |
| 35~39 | 1,054 | 951 | 83 | 21 | 571 | 119 | 180 | 272 | -484 | -832 | 98 | 251 |
| 40~44 | 966 | 667 | 280 | 19 | 543 | 159 | 153 | 231 | -423 | -507 | -127 | 211 |
| 45~49 | 901 | 451 | 429 | 20 | 655 | 231 | 140 | 284 | -246 | -221 | -289 | 264 |
| 50~54 | 900 | 397 | 396 | 108 | 799 | 308 | 129 | 361 | -101 | -88 | -266 | 254 |
| 55~59 | 767 | 341 | 275 | 151 | 840 | 319 | 117 | 404 | 74 | -22 | -158 | 254 |
| 60~64 | 701 | 249 | 240 | 211 | 746 | 273 | 102 | 371 | 45 | 23 | -139 | 160 |
| 65~69 | 585 | 183 | 158 | 245 | 579 | 155 | 157 | 266 | -6 | -27 | 0 | 22 |
| 70~74 | 449 | 86 | 134 | 230 | 576 | 73 | 156 | 347 | 127 | -13 | 22 | 117 |
| 75~79 | 298 | 31 | 72 | 196 | 413 | 26 | 89 | 297 | 114 | -5 | 17 | 102 |
| 80~84 | 162 | 11 | 38 | 113 | 249 | 9 | 49 | 190 | 87 | -2 | 11 | 78 |
| 85~89 | 55 | 3 | 13 | 39 | 76 | 2 | 21 | 53 | 21 | 0 | 8 | 13 |
| 90歳以上 | 13 | 0 | 0 | 13 | 72 | 0 | 0 | 72 | 59 | 0 | 0 | 59 |
| 合計 | 17,619 | 6,235 | 2,912 | 8,471 | 10,177 | 1,826 | 1,944 | 6,406 | -7,442 | -4,409 | -968 | -2,065 |
| 0~14 歳 | 5,420 | 0 | 0 | 5,420 | 1,776 | 0 | 0 | 1,776 | -3,644 | 0 | 0 | -3,644 |
| 15~39歳 | 6,401 | 3,816 | 877 | 1,707 | 2,853 | 270 | 831 | 1,752 | -3,547 | -3,546 | -46 | 45 |
| 40~59 | 3,534 | 1,856 | 1,380 | 298 | 2,837 | 1,017 | 539 | 1,280 | -697 | -839 | -841 | 982 |
| 60歳以上 | 2,264 | 563 | 655 | 1,046 | 2,710 | 539 | 574 | 1,597 | 446 | -24 | -81 | 551 |
| 構成比 I | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 0~14 歳 | 31 | 0 | 0 | 64 | 17 | 0 | 0 | 28 | 49 | 0 | 0 | 176 |
| 15~39 | 36 | 61 | 30 | 20 | 28 | 15 | 43 | 27 | 48 | 80 | 5 | -2 |
| 40~59 | 20 | 30 | 47 | 4 | 28 | 56 | 28 | 20 | 9 | 19 | 87 | -48 |
| 60歳以上 | 13 | 9 | 22 | 12 | 27 | 30 | 30 | 25 | -6 | 1 | 8 | -27 |
| 構成比 II | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 100 | 35 | 17 | 48 | 100 | 18 | 19 | 63 | 100 | 59 | 13 | 28 |
| 0~14 歳 | 100 | 0 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 100 |
| 15~39 | 100 | 60 | 14 | 27 | 100 | 9 | 29 | 61 | 100 | 100 | 1 | -1 |
| 40~59 | 100 | 53 | 39 | 8 | 100 | 36 | 19 | 45 | 100 | 120 | 121 | -141 |
| 60歳以上 | 100 | 25 | 29 | 46 | 100 | 20 | 21 | 59 | 100 | -5 | -18 | 124 |

出所、注：表2-1-1に同じ

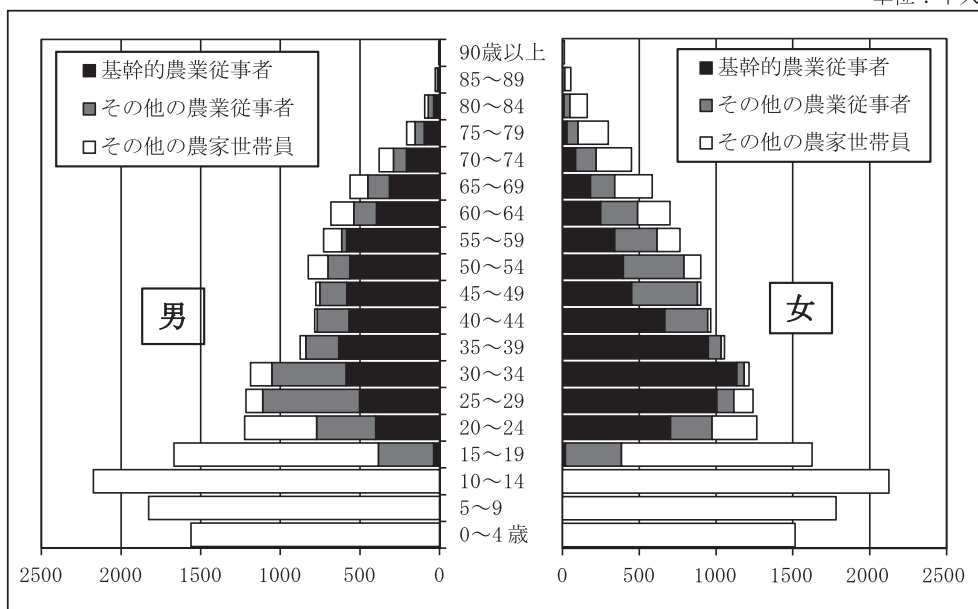
基幹的農業従事者は男子では60歳以上の者は1960年には19%であったが、1985年には43%へと大幅に上昇した。女子はこれが9%から30%へと比率で3倍以上に急上昇している。

その他の農業従事者の男子は30歳未満では流出超過であるが30歳以上では増加しているが、これは基幹的農業従事者の多くの流出が在宅での兼業による移動で他産業に従事しながら農業にも従事しているためと考えられる。

その他の農家世帯員は15歳未満の幼児、小中学生の他は、他産業のみに従事、あるいは家事、育児専従者と考えられるが、男子では15~24歳は就職で大幅に減少、25~49歳で在宅離農で増加し、50~75歳は他産業就業をリタイアし、

図2-1-1 1960年 農家世帯員（旧・総農家）の人口ピラミッド（就業状態別）

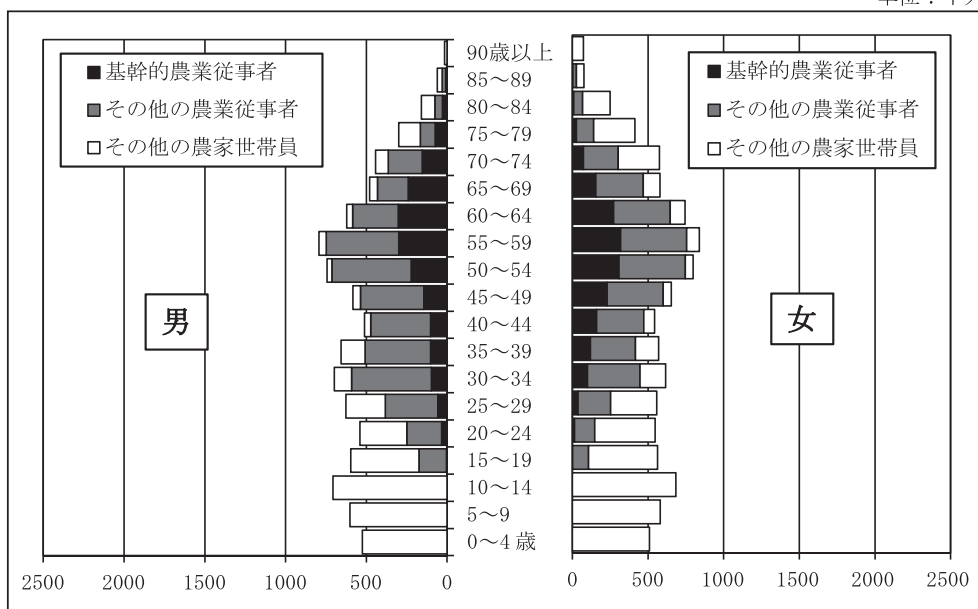
単位：千人



注：表2-1-1と表2-1-2の1960年のデータを基に作図

図2-1-2 1985年 農家世帯員（旧・総農家）の人口ピラミッド（就業状態別）

単位：千人



注：表2-1-1と表2-1-2の1985年のデータを基に作図

その他の農業従事者となり減少、75歳以上ではリタイア後その他の世帯員として流入したことにより増加したと考えられる。女子のその他の農家世帯員は学

卒時の15～19歳の大幅減少を除いて20歳以上の全年齢階層とりわけ20～59歳で増加しているが、基幹的農業従事者から結婚、出産、育児のためいわば一時帰休したことによるものと考えられる。

なお、0～14歳の農家世帯員がすべての年齢階級で大幅に減少しているが、これは1960年から1985年にかけての出生数の減少が主な要因であり、第3節の出生、死亡、社会的移動など事由別の増減推計と合わせて分析する。

(2) 標準コーホート表とコーホート変化率で見る変化

表2-1-3に農家世帯員数、男子について、第1章(1)で説明した調査時点の間隔が出生コーホートの年齢区分の幅と一致する標準コーホート表と各年5年前のコーホート人数(斜め左上の人数)に対するコーホート変化率を示した。ただし、合計は5年前の合計に対する変化率であり、0～5歳の欄は5年前の女子20～39歳人口合計に対する比率(5年間出生率)である。また、90歳以上は85～89歳から90歳以上になった者の他90歳～94歳で95歳以上になった者を

表2-1-3 標準コーホート表、コーホート変化率、コーホート増減数 1960-1985
農家世帯員 男

| | 標準コーホート表 (千人) | | | | | | 5年間コーホート変化率 (%) | | | | |
|-------|---------------|--------|--------|--------|--------|-------|-----------------|------|------|------|------|
| | 1960 | 1965 | 1970 | 1975 | 1980 | 1,985 | 1965 | 1970 | 1975 | 1980 | 1985 |
| 0～4 歳 | 1,560 | 1,424 | 1,057 | 787 | 618 | 525 | 0.30 | 0.27 | 0.23 | 0.22 | 0.21 |
| 5～9 | 1,827 | 1,374 | 1,024 | 774 | 728 | 601 | 88.1 | 71.9 | 73.3 | 92.5 | 97.2 |
| 10～14 | 2,174 | 1,605 | 1,034 | 794 | 651 | 707 | 87.9 | 75.3 | 77.6 | 84.1 | 97.1 |
| 15～19 | 1,667 | 1,480 | 1,356 | 1,003 | 778 | 596 | 68.1 | 84.5 | 97.0 | 98.0 | 91.5 |
| 20～24 | 1,224 | 896 | 980 | 866 | 704 | 540 | 53.8 | 66.2 | 63.9 | 70.1 | 69.4 |
| 25～29 | 1,215 | 860 | 701 | 792 | 794 | 627 | 70.3 | 78.3 | 80.8 | 91.6 | 89.1 |
| 30～34 | 1,186 | 957 | 700 | 556 | 691 | 699 | 78.8 | 81.4 | 79.3 | 87.3 | 88.0 |
| 35～39 | 874 | 1,036 | 891 | 634 | 529 | 656 | 87.4 | 93.1 | 90.7 | 95.2 | 94.9 |
| 40～44 | 783 | 839 | 985 | 830 | 618 | 511 | 95.9 | 95.1 | 93.1 | 97.4 | 96.6 |
| 45～49 | 777 | 717 | 786 | 902 | 787 | 583 | 91.5 | 93.8 | 91.5 | 94.8 | 94.5 |
| 50～54 | 824 | 726 | 668 | 727 | 852 | 744 | 93.5 | 93.1 | 92.5 | 94.5 | 94.5 |
| 55～59 | 728 | 689 | 651 | 592 | 666 | 794 | 83.6 | 89.6 | 88.7 | 91.6 | 93.1 |
| 60～64 | 682 | 680 | 623 | 577 | 545 | 621 | 93.4 | 90.4 | 88.7 | 92.1 | 93.2 |
| 65～70 | 562 | 595 | 561 | 512 | 497 | 480 | 87.2 | 82.5 | 82.3 | 86.1 | 88.0 |
| 70～74 | 379 | 386 | 443 | 453 | 450 | 443 | 68.6 | 74.4 | 80.8 | 87.9 | 89.2 |
| 75～79 | 206 | 221 | 245 | 272 | 290 | 300 | 58.2 | 63.6 | 61.4 | 64.0 | 66.6 |
| 80～84 | 93 | 92 | 111 | 122 | 143 | 160 | 44.4 | 50.4 | 49.6 | 52.5 | 55.1 |
| 85～89 | 26 | 29 | 27 | 40 | 47 | 60 | 31.5 | 30.0 | 35.8 | 39.0 | 42.0 |
| 90歳以上 | 5 | 7 | 14 | 9 | 11 | 16 | 27.1 | 47.4 | 31.2 | 28.5 | 32.7 |
| 合計 | 16,793 | 14,612 | 12,855 | 11,242 | 10,400 | 9,662 | 87.0 | 88.0 | 87.5 | 92.5 | 92.9 |

出所：各年農林業センサス結果を基に筆者作成

注1) コーホート変化率は5年前の5歳下の階級の値に対する比率である。

2) 0-4歳は5年前の20歳から39歳までの女子の農家世帯員合計に対する比率(出生率)である。

3) また、合計の欄の比率は5年前の合計に対する比率である。

4) 1970年までの原データには沖縄を含まないが、本表では調整しないまま計算している。

含み、変化率の分母は5年前の85～89歳であるが、分子にはコーホートの90～94歳の他に95歳以上も含む変化率である。

標準コーホート表を縦列に沿って見た比較は、特定年次の年齢効果を見ることになる。表2-1-3で農家世帯員数、男子のコーホート変化率を縦に見ると、各年代を通じて14歳以下が80%をおおむね上回っているのに対し、15～19歳から20～24歳への変化は54～70%へと大きく低下している。いうまでもなく、15～19歳の年齢階級には中学校、高校の卒業年齢を含み、卒業後家族を離れて就職する者が30～40%に達することを示している。25歳以上から30～34歳までの変化率は70～90%であり、かなりの者が新たに農家を離れて就職したためと考えられる。35歳以上65歳未満では変化率はおおむね90%台であり、35歳も過ぎると家を離れての就職は難しく基本的には農家にとどまっているためと思われる。65歳を過ぎると年齢が高まるとともに変化率（残存率）が低下するがいうまでもなく、加齢による死亡率の高まりが主な理由である。

標準コーホート表を斜め右下に沿ってみると同一コーホートの変化を見ることが出来る。この変化は、年齢効果、コーホート効果、時代効果を合わせて見ることになる。

横に見るとコーホートは異なるが、同一年齢階級の5年ごとの時間的変化を見ることが出来る。変化率表で見ると、1960-65年間に大きな変化を示し、わずか5年間に20-24歳層は54%と半数近く、15-19歳が68%、25-29歳が70%と大幅に農家外へ流出した。その後農家外への減少率は年次を下るにしたがって低下し、1980-85年には20-24歳階級は流出率が31%と依然としてかなり高いが、15-19歳、25-29歳、30-34歳は流出がおおむね10%、35～64歳の年齢階層ではほぼ95%で同一である。65歳以上は80～84歳層まで年齢層が上がるにしたがって残存率が低下するが時系列ではおおむね各年齢層とも上昇している。これは年齢上昇に伴う死亡率の上昇と、時系列では死亡率の低下を反映していると見られる。85-89歳、90歳以上はこれら高齢者の生きた激動の時代を反映しているのかもしれない説明の難しい変化を示している。

横軸に沿ってこの農家世帯員、男子の表を見ると、5年ごとの異なったコーホートではあるが同じ年齢層の変化を見ることが出来る。14歳以下の学卒時までには親の農家外との流出入に伴うものと考えられ、それまでは出生数（0～4

歳人口)の変化が大きく影響している。特に戦後ベビーブーマーといわれる1960年の10～14歳層は農家世帯員数でも2,174千人と突出していたが、コーホートが順次移動し、学卒時の1970年に20～24歳で980千人、1975年の25-29歳で792千人と大幅に減少し、1975年には前後の年次と変わらなくなっている。いわば農家世帯員のベビーブーマーは1975年には成人するとともに統計的には確認できなくなり、「消滅」したと言えるほど急減したといえる。

1960年から1985年間の農家世帯員男子の5歳階級刻みの標準コーホート表の分析からは、25歳以下の世帯員数の変化では、出生数の減少が大きく影響していること、15歳以上69歳までの全階層で農家外へ流出し、農家人口の大幅な減少を招いた。特にこの減少は15歳から34歳層で顕著である。

なお、標準コーホート表およびコーホート変化率表の分析は多数の表とその詳細な分析を必要とするので、この節での説明にとどめ、本稿の以下の分析では、直接的な表の引用は省略し、その分析結果を踏まえた定性的な記述にとどめている。

(3) 1960年～1980年の出生、死亡、社会的(就業状態)移動

表2-1-1に示した1960年から1985年への農家人口と農業労働力の変化を概説したが、この節ではこの25年間の増減の要因について分析する。

表2-1-4に農家世帯員女子の20歳から39歳の合計に対する5年後の0-4歳男女別農家世帯員数の比率を、本稿における5歳刻みのコーホート分析では合計出生率としている。「合計特殊出生率」は「女性が一生に出産する子供の数の平均値」として使われて、統計的には「15-49歳の女性の各年齢の年間出生率の合計」として計算されるが、本稿では分母として20歳から39歳までの女性とし

表2-1-4 女20-39歳人口(千人)に対する0-4歳児合計出生率

| | | 1960 | 1965 | 1970 | 1975 | 1980 | 1985 |
|---------------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 女20-39歳人口 | (千人) | 4,776 | 3,946 | 3,418 | 2,822 | 2,527 | 2,291 |
| 0-4歳児数 | 男 | 1,560 | 1,424 | 1,057 | 787 | 618 | 525 |
| | 女 | 1,516 | 1,395 | 1,061 | 773 | 601 | 509 |
| 対5年前女20-39歳人口 | 男 | | 0.30 | 0.27 | 0.23 | 0.22 | 0.21 |
| | 女 | | 0.29 | 0.27 | 0.23 | 0.21 | 0.20 |
| 0-4歳児合計の出生率 | (%) | | | | | | |

出所：各年農林業センサス結果を基に筆者作成

注：表2-1-3の注2に同じ

ている。年齢の幅を狭めたのは、女子の出産年齢の大部分をカバーしつつ、女子の各年齢階層のシェアの変化による時系列比較における歪みを少なくしようとしたためである。

この表を見ると、1965年から1985年まで、農家世帯の0-4歳の人口は男子が1,424千人から1985年の525千人へ、女子が1,395人から509千人へと25年ですぐれも4割弱に激減している。20-39歳の女子の人口は1960年の4,776千人から1980年の2,527千人へと約5割に減少し、5年間の出生率は、男子が0.30から0.21へ、女子が0.29から0.20へといずれも約7割に減少している。出生数の減少に対する寄与率としては、20-49歳女子人口の減少が約6割弱、出生率の低下が約4割強となる。

表2-1-7における出生数増減は、29歳未満の各年齢階級コーホートの出生時の0-4歳人口数（表2-1-6）と基準年次1960年の0-4歳人口との差である。1985年の15歳以上年齢層の就業状態別出生数の増減は、世帯員の出生数の増減を、実績の世帯員の就業状態別人口比により案分して求めている。つまり、ここでは基準年次である1960年の0-4歳の人口が死亡もなく1985年まで生きていたとした場合の人口数と実際に生まれた人口数の差を推計した数字である。

表2-1-5に1960年と1985年の国勢調査結果から推計した1985年の年齢階級別の過去25年間の生存率から計算した1960年から1985年までの累積死亡率の推計値を示した。24歳未満の年齢階級の累積死亡率は、1985年における年齢階級コーホートが0-4歳であった年次の人口の1985年までの生存率から推計した。ただし、生存率については、沖縄が1975年から調査対象に加わったこともあって、生存率が1を上回る場合が出てきた場合など、不自然なデータについては、このような問題のない年次の5年間生存率の累積値などで最小限の補正を行った。

この死亡率の表を見ると男子は60歳以上の年齢階級で徐々に死亡率が上昇し、特に75歳以上で急上昇している。女子の死亡率の上昇は男子に約10歳上で、10%を超え、50%を超えるのは80歳以上となる。

以上の出生数の増減、死亡率の推計値を使って、男女別に農家世帯員数、基幹的農業従事者、その他の農業従事者、その他の農家世帯員について、年齢別に出生数の減少に伴う変化、死亡数を推計した。以上の方法で推計した男女別、各年齢別のコーホートの出生数、死亡数を基に、1960年から1985年までの増減

表2-1-5 1960-1985年間 生存率から推計した死亡率（対1960年人口比）

単位：%

| 1985年年齢 | 男 | 女 |
|---------|------|------|
| 0～4 歳 | 0.0 | 0.0 |
| 5～9 | 1.0 | 0.7 |
| 10～14 | 1.8 | 1.5 |
| 15～19 | 2.6 | 2.1 |
| 20～24 | 3.1 | 2.1 |
| 25～29 | 3.1 | 3.1 |
| 30～34 | 3.5 | 3.5 |
| 35～39 | 3.9 | 3.9 |
| 40～44 | 3.9 | 3.9 |
| 45～49 | 4.6 | 4.6 |
| 50～54 | 4.9 | 4.9 |
| 55～59 | 9.7 | 9.7 |
| 60～64 | 14.5 | 8.3 |
| 65～69 | 22.3 | 12.8 |
| 70～74 | 33.8 | 20.1 |
| 75～79 | 50.5 | 32.2 |
| 80～84 | 70.1 | 52.0 |
| 85～89 | 85.9 | 82.0 |
| 90歳以上 | 94.9 | 77.5 |

注：1960年から1985年までの国勢調査を基に作成

数（男子は表2-1-1の増減数、女子については表2-2-2の増減数）から出生数の減少に伴う変化と死亡数を差引きしたものを「社会的移動」として推計した⁴⁾。この事由別の農家世帯員の推計結果を男子については表2-1-7、表2-1-8、表2-1-9に示し、女子については表2-1-10、表2-1-11、表2-1-12に示している。

この農家世帯員の社会的移動による増減は農家外との純流出入であるが、本稿ではこの社会的移動を「リタイア」、「職業的移動」、「新規補充」等に分離しなかった。以下で見るように農家人口の「社会的移動」は農家内部の就業形態の移動の場合も多く、「その他の農業従事者」や「その他の世帯員」などの中間的で多様な移動を経て行われ、年齢階層ごとに何が主流であるかの特徴はあるにしても、一律ではない。基幹的農業従事者の社会的移動は60歳を超えて89歳に至るまで流入超過であり、リタイアとする社会的移動は表に出てこない。

新規補充については、中学、高校の卒業期を含む15-19歳の年齢階級の基幹的農業従事者は新規補充とするにはゼロとの有意性すら危ぶまれるほど極端に少なくなっている。しかし、20-24歳の基幹的労働者数は有意と言える数ではある。そこで表2-1-6に1965年から1985年の20-24歳の基幹的農業者と15-19歳

表2-1-6 1960-1985 20-24歳の基幹的農業者への就農率

| | | 1960 | 1965 | 1970 | 1975 | 1980 | 1985 |
|---------------------------------|---|-------|-------|-------|------|------|------|
| 15-19歳農家世帯員 (千人) | 男 | 2,174 | 1,605 | 1,034 | 794 | 651 | 707 |
| | 女 | 2,124 | 1,583 | 1,002 | 773 | 632 | 685 |
| 20-24歳基幹的農業者 (千人) | 男 | 401 | 258 | 177 | 94 | 58 | 34 |
| | 女 | 703 | 277 | 160 | 58 | 33 | 13 |
| 15-19歳農家世帯員の5年後の基幹的農業者への就農率 (%) | 男 | | 11.9 | 11.0 | 9.1 | 7.4 | 5.2 |
| | 女 | | 13.0 | 10.1 | 5.8 | 4.3 | 2.1 |

出所、注1：表2-1-4に同じ

注2：就農率とは20-24歳の基幹的農業従事者の5年前の14-19歳農家人口に対する割合である。

農家人口、および前者の5年前の後者に対する比率を新規就農比率として示した。男子の新規就農比率は1965年の12%から5%へとかなり低下している。これに15-19歳と20-24歳の男子農家人口の大幅な減少が重なり、男子の20-24歳の基幹的農業従事者は1960年の401千人から1985年には34千人へと激減している。女子の新規就農率は1965年の13%から2%へ大幅に低下し、これに15-19歳と20-24歳の女子農家人口の大幅な減少が重なり、女子の20-24歳の基幹的農業者も1960年の703千人から1985年には13千人へ、実に2%以下へ激減している。さらに後に見るように、男女とも15-19歳、20-24歳を含めての基幹的農業従事者は社会的移動の大幅な純流出となっており、新規就農した者も数年をまたず離農していると推測される。新規就農とか新規補充は、その後長年におわたって農業を継続することが前提の概念であるが、男女とも基幹的農業従事者は25-29歳階級においても、社会的移動の大幅な純流出となっており、20-24歳までに新規就農した者も数年で離農することが多いと推測される。1960-85年の間にすでに新規就農とか新規補充を云々することが、無意味と言えるほど若年層の脱農が進んだと言える。

「社会的移動」の年齢階層別の特徴としては、14歳以下および15-19歳の一部の「社会的移動」は、親の離農に伴う流出入や進学による別居通学などが主な内容と考えられる。15-19歳の学卒者および20-49歳層の社会的移動は、主に就職による流出入と考えられる。世帯員の就業状態別つまり基幹的農業従事者、その他の農業従事者、その他の農家世帯員の移動については、農家内の就業状態の移動なのか、それとも農家外との流出入なのかはわからないが、年齢別に見て、合計としての年齢別世帯員の増減にくらべかなり小さい場合が多く、その大部分は農家内部における就業状態の移動であり、その主流は他産業への就

職に伴う移動と考えられる。50歳以上になると社会的移動の主流は他産業からのリタイアによる環流が主流となる。1960-1985年の25年間で基幹的農業者の社会的移動は男子では65歳以上、女子は55歳以上のすべての年齢層で増加、つまり流入超過であり（表2-1-7、表2-1-10）、その限りでは、基幹的農業従事者は男女ともに農業からのリタイアもなく、死ぬ間際まで働き続けられる果報者とも言える⁵⁾。

表2-1-7に1960年から1985年の間の男子の農業従事状態別農家人口の事由別増減数を、表2-1-8にその農業従事状態別増減率を、表2-1-9に農業従事状態別

表2-1-7 1960-1985 農業従事状態別農家人口（男）の事由別増減

単位：千人、%

| 1985年齢 | 1960-1985出生数増減 | | | | 1960-1985死亡 | | | | 1960-1985 社会的移動 | | | |
|--------|----------------|----------|-----------|-----------|-------------|----------|-----------|-----------|-----------------|----------|-----------|-----------|
| | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 |
| 0～4 歳 | -1,035 | 0 | 0 | -1,035 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 5～9 | -942 | 0 | 0 | -942 | -6 | 0 | 0 | -6 | -278 | 0 | 0 | -278 |
| 10～14 | -773 | 0 | 0 | -773 | -14 | 0 | 0 | -14 | -681 | 0 | 0 | -681 |
| 15～19 | -503 | -4 | -144 | -356 | -27 | 0 | -8 | -19 | -541 | -30 | -25 | -486 |
| 20～24 | -136 | -8 | -54 | -73 | -44 | -3 | -17 | -23 | -504 | -356 | -84 | -64 |
| 25～29 | | | | | -48 | -4 | -25 | -19 | -539 | -441 | -257 | 159 |
| 30～34 | | | | | -63 | -9 | -45 | -10 | -424 | -481 | 72 | -15 |
| 35～39 | | | | | -85 | -13 | -53 | -19 | -133 | -517 | 253 | 132 |
| 40～44 | | | | | -66 | -13 | -47 | -5 | -206 | -453 | 219 | 28 |
| 45～49 | | | | | -57 | -14 | -38 | -5 | -137 | -424 | 262 | 25 |
| 50～54 | | | | | -60 | -18 | -39 | -2 | -21 | -323 | 395 | -92 |
| 55～59 | | | | | -115 | -43 | -65 | -7 | 181 | -240 | 483 | -62 |
| 60～64 | | | | | -127 | -62 | -57 | -7 | 65 | -32 | 199 | -101 |
| 65～69 | | | | | -174 | -87 | -70 | -17 | 92 | 13 | 125 | -46 |
| 70～74 | | | | | -263 | -91 | -124 | -47 | 327 | 38 | 252 | 37 |
| 75～79 | | | | | -416 | -102 | -128 | -186 | 509 | 79 | 163 | 268 |
| 80～84 | | | | | -510 | -91 | -152 | -267 | 577 | 82 | 166 | 329 |
| 85～89 | | | | | -586 | -80 | -211 | -296 | 620 | 83 | 224 | 313 |
| 90歳以上 | | | | | -534 | 0 | 0 | -534 | 544 | 0 | 0 | 544 |
| 合計 | -3,389 | -12 | -198 | -3,179 | -3,194 | -630 | -1,080 | -1,483 | -548 | -3,002 | 2,446 | 9 |
| 0～14 歳 | -2,750 | 0 | 0 | -2,750 | -20 | 0 | 0 | -20 | -959 | 0 | 0 | -959 |
| 15～39歳 | -639 | -12 | -198 | -429 | -267 | -29 | -148 | -90 | -2,141 | -1,824 | -42 | -275 |
| 40～59 | 0 | 0 | 0 | 0 | -297 | -88 | -190 | -18 | -183 | -1,440 | 1,359 | -101 |
| 60歳以上 | 0 | 0 | 0 | 0 | -2,610 | -513 | -743 | -1,354 | 2,735 | 263 | 1,129 | 1,343 |
| 構成比 I | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 0～14 歳 | 81 | 0 | 0 | 87 | 1 | 0 | 0 | 1 | 175 | 0 | 0 | -11,257 |
| 15～39 | 19 | 100 | 100 | 13 | 8 | 5 | 14 | 6 | 391 | 61 | -2 | -3,229 |
| 40～59 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9 | 14 | 18 | 1 | 33 | 48 | 56 | -1,185 |
| 60歳以上 | 0 | 0 | 0 | 0 | 82 | 81 | 69 | 91 | -499 | -9 | 46 | 15,771 |
| 構成比 II | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 100 | 0 | 6 | 94 | 100 | 20 | 34 | 46 | 100 | 548 | -446 | -2 |
| 0～14 歳 | 100 | 0 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 100 |
| 15～39 | 100 | 2 | 31 | 67 | 100 | 11 | 55 | 34 | 100 | 85 | 2 | 13 |
| 40～59 | | | | | 100 | 30 | 64 | 6 | 100 | 788 | -744 | 55 |
| 60歳以上 | | | | | 100 | 20 | 28 | 52 | 100 | 10 | 41 | 49 |

出所：農林業センサス 累年統計 を基に筆者推計

注：1960年には沖縄を含まない

農家人口の事由別増減率を示している。男子の農家世帯員は1960年から1985年の間に7,130千人減少した（表2-1-1）。表2-1-7で見るとおり、このうち出生数の減少が3,389千人、死亡が3,194千人で農家外への社会的移動による純流失が548千人である。この間の男子の農家世帯員の減少率で見ると、48%が出生数の減少、45%が死亡数の増加、離農就職など7%が社会的移動で説明され、大部分が出生数の減少と死亡によるものである。表2-1-7にみる男子の農家人口42%減の内訳を表2-1-9で見ると出生数が20%減、死亡が19%減、農外への純流失は42%減の内の3%減にすぎない。この25年間の出生数の減少はすべて25歳未満の世帯員の減少であり、死亡はすべての年齢層に及ぶが、60歳以上が82%を占める。

表2-1-7で、男子の農家世帯員の社会的移動を年齢別に見ると、54歳以下で3,464千人の流出超過、55歳以上で2,916千人の流入超過、合計では548千人の流出超過である。1960年-1985年という高度経済成長期において、農家は将来の労働力要員となる14歳未満の子供を含めて54歳以下の農家世帯員を大量に流出させ、他方55歳以上では他産業をリタイアした人たちを受け入れる受皿となっている。

表2-1-8 1960-1985年間の農業従事状態別農家人口(男)増減率

単位：%

| 1985年齢 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 |
|--------|-------|----------|-----------|-----------|
| 総数 | -42 | -66 | 39 | -56 |
| 0～14歳 | -22 | 0 | 0 | -45 |
| 15～39歳 | -18 | -34 | -13 | -10 |
| 40～59 | -3 | -28 | 39 | -1 |
| 60歳以上 | 1 | -5 | 13 | 0 |

注：表2-1-1を基に筆者作成

表2-1-9 1960-1985年間の農業従事状態別農家人口(男)増減率の事由別内訳

単位：%

| 1985年齢 | 1960-1985出生数増減 | | | | 1960-1985死亡 | | | | 1960-1985社会的移動 | | | |
|--------|----------------|----------|-----------|-----------|-------------|----------|-----------|-----------|----------------|----------|-----------|-----------|
| | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 |
| 総数 | -20 | 0 | -7 | -38 | -19 | -11 | -36 | -18 | -3 | -54 | 82 | 0 |
| 0～14歳 | -16 | 0 | 0 | -33 | 0 | 0 | 0 | 0 | -6 | 0 | 0 | -12 |
| 15～39歳 | -4 | 0 | -7 | -5 | -2 | -1 | -5 | -1 | -13 | -33 | -1 | -3 |
| 40～59 | 0 | 0 | 0 | 0 | -2 | -2 | -6 | 0 | -1 | -26 | 45 | -1 |
| 60歳以上 | 0 | 0 | 0 | 0 | -16 | -9 | -25 | -16 | 16 | 5 | 38 | 16 |

注：表2-1-1，表2-1-7を基に筆者作成

男子の基幹的農業従事者は1960年の5,515千人から1985年には1,870千人へと3,645千人の減少で、66%減と激減したが、内34%減が15-39歳、28%減が40-59歳、60歳以上は5%減と15-60歳の全年齢階層に及んでいる。基幹的農業従事者の減少を事由別に見ると、66%の減少率の内、死亡が11%減、その内9%減は60歳以上であり、社会的移動（就業状態の移動）が54%減で、基幹的農業労働者から他産業への就業、「その他の農業従事者」、あるいは農業には従事しない「その他の農家世帯員」に転換したと考えられる。基幹的農業者は農業労働力の文字通り基幹となるものであるが、1960年から1985年の間に男子は50歳未満の全年齢階層で半分以下となり、60歳以上も85歳以上のわずかな増加を除いて流出超過であり、農業労働力の補充について論じることはほとんど無意味となっている。今後は農業労働力の縮小は不可避との認識に立って、技術進歩、構造改革による労働生産性の向上のスピードがこれに対応できるかどうか重要な課題となる。

男子の「その他の農業従事者」の社会的移動を見ると、15-29歳で流出超過であるが、30歳以上では全年齢層で流入超過であり、その多く基幹的農業従事者が他産業に就職したが、農家内で農業にも従事している者と考えられる。

「その他の農家世帯員」の14歳以下は、幼児、通学生であり、15-19歳も過半は通学生と考えられるが、1960年からの減少の大部分は出生数の減少であり、社会的移動は親の農外流出に伴う移動と考えられる。

表2-1-10に農家女子の農業従事状態別農家人口の事由別増減数を、表2-1-11にその従事状態別増減率を、表2-1-12にその事由別増減率を示している。女子の農家世帯員は1960年から1985年の間に男子を上回る7,442千人減少した（表2-1-2）。表2-1-10で見るとおり、このうち出生数の減少は3,240千人と男子と大差ないが、死亡は2,668千人と男子の3,194千人よりかなり少ない。この間の女子の農家世帯員の減少の44%が出生数の減少、36%が死亡数の増加で、80%が出生数の減少と死亡で、社会的移動による減少は21%であることは、男子と同様に女子も農家人口の社会的移動が主として農家内部の就業状態の移動であることを裏付けている。しかし、離農就職、結婚など社会的移動による女子の農外流出は1,534千人（女子世帯員減少の21%）で男子の548千人（男子農家世帯員減少の7%）を大幅に上回る。女子の農家世帯員の社会的移動による純流

表2-1-10 1960-1985 農業従事状態別農家人口（女）の事由別増減

単位：千人、%

| 1985年齢 | 1960-1985出生数増減 | | | | 1960-1985死亡 | | | | 1960-1985 社会的移動 | | | |
|--------|----------------|----------|-----------|-----------|-------------|----------|-----------|-----------|-----------------|----------|-----------|-----------|
| | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 |
| 0~4 歳 | -1,007 | 0 | 0 | -1,007 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 5~9 | -915 | 0 | 0 | -915 | -4 | 0 | 0 | -4 | -279 | 0 | 0 | -279 |
| 10~14 | -742 | 0 | 0 | -742 | -11 | 0 | 0 | -11 | -685 | 0 | 0 | -685 |
| 15~19 | -455 | -1 | -85 | -370 | -22 | 0 | -4 | -18 | -586 | -18 | -172 | -396 |
| 20~24 | -121 | -3 | -26 | -91 | -29 | -1 | -6 | -22 | -569 | -686 | -118 | 236 |
| 25~29 | 0 | | | | -47 | -3 | -15 | -29 | -637 | -965 | 81 | 247 |
| 30~34 | | | | | -61 | -10 | -25 | -27 | -538 | -1,028 | 227 | 264 |
| 35~39 | | | | | -83 | -17 | -26 | -40 | -400 | -815 | 124 | 290 |
| 40~44 | | | | | -64 | -19 | -18 | -27 | -359 | -488 | -109 | 239 |
| 45~49 | | | | | -59 | -21 | -13 | -25 | -188 | -200 | -277 | 289 |
| 50~54 | | | | | -61 | -24 | -10 | -28 | -40 | -65 | -257 | 281 |
| 55~59 | | | | | -117 | -45 | -16 | -56 | 191 | 23 | -141 | 310 |
| 60~64 | | | | | -88 | -32 | -12 | -44 | 133 | 55 | -127 | 204 |
| 65~69 | | | | | -124 | -33 | -34 | -57 | 118 | 6 | 33 | 79 |
| 70~74 | | | | | -181 | -23 | -49 | -109 | 308 | 10 | 71 | 227 |
| 75~79 | | | | | -290 | -18 | -63 | -209 | 404 | 14 | 80 | 311 |
| 80~84 | | | | | -398 | -15 | -79 | -305 | 485 | 13 | 89 | 382 |
| 85~89 | | | | | -575 | -19 | -158 | -398 | 595 | 18 | 166 | 411 |
| 90歳以上 | | | | | -453 | 0 | 0 | -453 | 512 | 0 | 0 | 512 |
| 合計 | -3,240 | -4 | -111 | -3,125 | -2,668 | -279 | -527 | -1,862 | -1,534 | -4,126 | -330 | 2,921 |
| 0~14 歳 | -2,664 | 0 | 0 | -2,664 | -16 | 0 | 0 | -16 | -964 | 0 | 0 | -964 |
| 15~39歳 | -576 | -4 | -111 | -461 | -242 | -31 | -76 | -135 | -2,729 | -3,512 | 142 | 641 |
| 40~59 | 0 | 0 | 0 | 0 | -301 | -108 | -57 | -137 | -396 | -731 | -784 | 1,119 |
| 60歳以上 | 0 | 0 | 0 | 0 | -2,109 | -140 | -394 | -1,575 | 2,555 | 117 | 313 | 2,126 |
| 構成比Ⅰ | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 0~14 歳 | 82 | 0 | 0 | 85 | 1 | 0 | 0 | 1 | 63 | 0 | 0 | -33 |
| 15~39 | 18 | 100 | 100 | 15 | 9 | 11 | 15 | 7 | 178 | 85 | -43 | 22 |
| 40~59 | 0 | 0 | 0 | 0 | 11 | 39 | 11 | 7 | 26 | 18 | 238 | 38 |
| 60歳以上 | 0 | 0 | 0 | 0 | 79 | 50 | 75 | 85 | -167 | -3 | -95 | 73 |
| 構成比Ⅱ | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 100 | 0 | 3 | 96 | 100 | 10 | 20 | 70 | 100 | 269 | 21 | -190 |
| 0~14 歳 | 100 | 0 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 100 |
| 15~39 | 100 | 1 | 19 | 80 | 100 | 13 | 32 | 56 | 100 | 129 | -5 | -23 |
| 40~59 | | | | | 100 | 36 | 19 | 45 | 100 | 185 | 198 | -283 |
| 60歳以上 | | | | | 100 | 7 | 19 | 75 | 100 | 5 | 12 | 83 |

出所、注： 表2-1-7に同じ

失は、15-39歳で2,729千人と、女子の総死亡数を上回るが、内15-19歳の586千人の流出など就職や進学による流出もあるにしても、おそらく大部分は結婚に伴う農家外への純流失と考えられる。この出産期の女子の農家外純流出は農家の「嫁不足」の一因となり、また、出生率の低下と相まって出生数の減少を招き、農家世帯員の長期的な減少の原因となっている。

表2-1-11により女子の農家世帯員の農業就業状態別の増減率を、その内訳を表2-1-12で見ると、1960年-1985年間の女子農家世帯員の減少率は42%と男子と同率であるが、うち出生数の減少が18%、死亡が15%、農外への純流失が9%となっており、出生数の減少と死亡が減少の大部分ではあるが、農外純流出の

表2-1-11 1960—1985年間の 農業従事状態別農家人口(女)増減率

単位：％

| 1985年 年齢 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 |
|----------|-------|----------|-----------|-----------|
| 総数 | -42 | -71 | -33 | -24 |
| 0～14 歳 | -21 | 0 | 0 | -43 |
| 15～39歳 | -20 | -57 | -2 | 1 |
| 40～59 | -4 | -13 | -29 | 12 |
| 60歳以上 | 3 | 0 | -3 | 7 |

注：表2-1-2を基に筆者作成

表2-1-12 1960—1985年間の 農業従事状態別農家人口(女)増減率の事由別内訳

単位：％

| 1985年 年齢 | 1960—1985出生数増減 | | | | 1960—1985死亡 | | | | 1960—1985 社会的移動 | | | |
|----------|----------------|----------|-----------|-----------|-------------|----------|-----------|-----------|-----------------|----------|-----------|-----------|
| | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 |
| 総数 | -18 | 0 | -4 | -37 | -15 | -4 | -18 | -22 | -9 | -66 | -11 | 34 |
| 0～14 歳 | -15 | 0 | 0 | -31 | 0 | 0 | 0 | 0 | -5 | 0 | 0 | -11 |
| 15～39歳 | -3 | 0 | -4 | -5 | -1 | 0 | -3 | -2 | -15 | -56 | 5 | 8 |
| 40～59 | 0 | 0 | 0 | 0 | -2 | -2 | -2 | -2 | -2 | -12 | -27 | 13 |
| 60歳以上 | 0 | 0 | 0 | 0 | -12 | -2 | -14 | -19 | 15 | 2 | 11 | 25 |

注：表2-1-2、表2-1-10を基に筆者作成

ウエイトも42%の内の9%に達している。女子の世帯員数の減少では男子よりも死亡数のウエイトが小さく、他方、結婚に伴うの農家外流失がかなり大きなウエイトを占めている。農家世帯内の労働力の移動は結婚に伴う移動を除いては、大部分が世帯内での就業状態の移動であるとみられる。男子と同様に、25年間の女子の出生数の減少も、すべて25歳未満の世帯員の減少であり、死亡もすべての年齢層に及ぶが、その79%が60歳以上の死亡である。女子の農家世帯員の社会的移動を年齢別に見ると、54歳以下では4,280千人の流出超過は男子の3,464千人に比べてかなり多く、結婚に伴う女子の農家外への流出が深刻な嫁不足をもたらしたことを伺わせる。女子の55歳以上では2,746千人の流入超過で男子の2,916千人より少ないが大差はない。合計では女子は1,534千人の流出超過で男子の548千人を大幅に上回る。

女子についても1960年-1985年という高度経済成長期において、農家は将来の労働力要員となる14歳未満の子供を含めて54歳以下の世帯員を大量に流出させ、他方55歳以上の他産業をリタイアした人たちの受皿となっている。女子について特筆すべき点としては、1960-1985年間の15-39歳の女子農家世帯員の純流出は3,547千人と同年齢の男子農家世帯員の純流出3,048千人を500千人も上

回っており、この間の出生数の減少にとどまらず、その後の出生数の減少につながる要因となっていることがある。経済の高度成長は同時代の農業から大量の労働力を奪っただけでなく、将来の農業労働力の源泉まで奪い尽くしたといえる。

女子の基幹的農業従事者は1960年の6,235千人から1985年には1,826千人へと4,409千人の減少で、男子の66%減を上回る71%減と激減したが、内57%減が15-39歳、13%減が40-59歳、60歳以上は0%で、減少は15-59歳の全年齢階級に及んでいるが、15-39歳が71%の内57%と大部分を占める（表2-1-11）。しかも女子の基幹的農業従事者数の減少数が女子の農家世帯員の減少数を上回っていることは、女子15-39歳の年齢層の農家外流出のほぼすべては、基幹的農業従事者からの流失であったと推測できる。表2-1-10により女子の基幹的農業従事者の減少を事由別に見ると、71%の減少率の内、死亡が4%減、社会的移動（就業状態の移動）が66%減と大部分を占めるが、これには結婚による農家外への流出のほか、15-19歳層の進学、他産業就職および出産、育児のための「その他の農業従事者」、あるいは農業には従事しない「その他の農家世帯員」への移動が含まれる。表2-1-2に示した女子の1960年から1985年の間における基幹的農業従事者の減少4,409千人の内、15-39歳が3546千人で80%を占め、40-59歳が19%、60歳以上は24千人の純流出となっている。女子の基幹的農業従事者は1960年から1985年の間に全年齢階層で純減となっており、男子以上に農業労働力の補充について論じることは、ほとんど無意味となっている。1985年以降には女子の農業労働力の確保という問題以上に、農家世帯の家族としての継続性を確保するため、農家に残った男子の結婚相手と未来を担う出生を確保できるかが大きな課題となってくる。

女子の「その他の農業従事者」が15-24歳で減少しているのは結婚、就職による農家外への流出、25-39歳での増加は結婚、出産、育児、家事のための基幹的農業従事者からの移動、40-64歳の流出超過の多くは他産業への就職、家事育児のための「その他の世帯員」への移動などと思われる。70歳以降の増加は家事、育児の負担が軽くなり、傍ら農業の手伝いもするようになる農家の女子のライフサイクルを反映したものと推測される。

男子と同様に、14歳以下の女子の「その他の農家世帯員」は、幼児、通学生

であり、15-19歳も過半は通学生と考えられるが、1960年からの減少の大部分は出生数の減少であり、社会的移動は親の農外流出に伴う移動と考えられる。女子の15-19歳の「その他農家世帯員」の社会的移動による減少396千人は、この年齢層の女子農家世帯員の減少1,063千人の4割近くを占め、(他は出生数の減少455千人)その大部分は学卒時の就職、進学による社会的移動と考えられる。

3. 経済成長停滞期の農家人口、農業労働力の変化—1985～2010—

世界経済は1985年9月のプラザ合意により、構造的な転換期を迎え、日本経済はその影響で円高不況からバブル経済を経て、1990年バブル経済の破裂、その後2013年まで長い経済停滞を経験した。第3章では1985年から2010年までのバブル経済とその破綻、経済不況という経済成長停滞期における農家人口と、農業労働力の変化をコーホート分析の考え方に沿って分析する。

(1) 1985年から2010年への農家人口と農業労働力の変化

1985年から2010年までの農家人口と農業労働力の分析に先立って、1990年農林業センサスからおこなわれた農家の定義変更について略述する。農家は旧定義では、西日本では5アール以上、東日本では10アール以上の耕地で農業経営を行う世帯、および2万円以上(1960年)の農産物販売額がある農業経営世帯とされていたが、新定義では全国一律に10アール以上の耕地で農業経営を行う世帯、または15万円以上の農産物販売額のある農業経営世帯とされ、さらにそのうち30アール以上の耕地で農業経営を行う世帯、または50万円以上の農産物販売額のある農家を販売農家とし、これに達しない農家は自給農家と分類された。農林業センサスの多くの調査事項は販売農家のみについて行われている。旧定義と新定義による調査結果を比較するため、1985年についても、遡って農業センサスの再集計した結果が公表されている。表1-2-1に1985年の両定義による農家労働力の総数が示されている。これにより、男女合計について見ると、1985年の基幹的農業者は旧定義では3,696千人に対して、新定義の販売農家では3,465千人、94%、農業就業人口は旧定義の6,363千人に対して、新定義販売農家では5,428千人、85%、農業従事者は、旧定義では11,628千人に対して、

新定義の販売農家では9,427千人、81%となっている。農家世帯員については表には示していないが、同センサスの累年統計で見ると、旧定義では19,839千人に対して新定義の販売農家では15,633千人、79%となっている。

以下この章以降では新定義の販売農家の農家世帯員、基幹的農業従事者、その他の農業従事者、その他の農家世帯員について分析を行うが、前章で対象とした1960年-1985年のデータと通期で見ると場合には定義の変更には留意する必要がある⁶⁾。

日本の農家人口と農業労働力は1985年以降の経済の激動と経済成長停滞の中でどのように変化したのか。表3-1-1に男子、表3-1-2に女子について1985年お

表3-1-1 1985年、2,010年 販売農家人口、農業労働力 男

| | 1985 | | | | 2010 | | | | 1985-2010増減 | | | |
|--------|-------|----------|-----------|-----------|-------|----------|-----------|-----------|-------------|----------|-----------|-----------|
| | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 |
| 0~4 歳 | 420 | 0 | 0 | 420 | 99 | 0 | 0 | 99 | -321 | 0 | 0 | -321 |
| 5~9 | 481 | 0 | 0 | 481 | 104 | 0 | 0 | 104 | -377 | 0 | 0 | -377 |
| 10~14 | 566 | 0 | 0 | 566 | 110 | 0 | 0 | 110 | -455 | 0 | 0 | -455 |
| 15~19 | 467 | 4 | 147 | 316 | 155 | 1 | 50 | 104 | -313 | -4 | -97 | -212 |
| 20~24 | 431 | 34 | 184 | 213 | 154 | 8 | 72 | 74 | -276 | -26 | -112 | -139 |
| 25~29 | 505 | 56 | 277 | 172 | 146 | 17 | 83 | 47 | -359 | -40 | -194 | -125 |
| 30~34 | 563 | 96 | 341 | 126 | 142 | 21 | 86 | 35 | -421 | -75 | -255 | -91 |
| 35~39 | 517 | 100 | 389 | 28 | 143 | 24 | 90 | 29 | -374 | -76 | -299 | 1 |
| 40~44 | 393 | 101 | 283 | 9 | 146 | 28 | 96 | 22 | -248 | -74 | -187 | 13 |
| 45~49 | 461 | 142 | 287 | 32 | 187 | 40 | 129 | 19 | -274 | -102 | -159 | -13 |
| 50~54 | 592 | 218 | 346 | 28 | 236 | 59 | 163 | 14 | -356 | -159 | -183 | -14 |
| 55~59 | 633 | 295 | 327 | 11 | 291 | 97 | 185 | 8 | -342 | -197 | -142 | -3 |
| 60~64 | 488 | 269 | 197 | 22 | 288 | 149 | 135 | 5 | -200 | -120 | -62 | -18 |
| 65~69 | 371 | 213 | 120 | 37 | 221 | 161 | 56 | 3 | -150 | -52 | -64 | -34 |
| 70~74 | 344 | 137 | 139 | 68 | 244 | 197 | 40 | 7 | -100 | 61 | -99 | -61 |
| 75~79 | 233 | 65 | 62 | 105 | 248 | 193 | 40 | 15 | 15 | 128 | -22 | -90 |
| 80~84 | 124 | 25 | 33 | 66 | 182 | 115 | 37 | 30 | 58 | 89 | 4 | -36 |
| 85~89 | 46 | 7 | 16 | 24 | 80 | 39 | 24 | 18 | 34 | 32 | 8 | -6 |
| 90歳以上 | 12 | 0 | 0 | 12 | 33 | 0 | 0 | 33 | 21 | 0 | 0 | 21 |
| 合計 | 7,645 | 1,762 | 3,149 | 2,735 | 3,209 | 1,148 | 1,286 | 775 | -4,436 | -614 | -1,863 | -1,960 |
| 0~14 歳 | 1,466 | 0 | 0 | 1,466 | 313 | 0 | 0 | 313 | -1,153 | 0 | 0 | -1,153 |
| 15~39歳 | 2,483 | 290 | 1,338 | 855 | 740 | 70 | 381 | 289 | -1,743 | -220 | -957 | -566 |
| 40~59 | 2,567 | 1,024 | 1,440 | 103 | 860 | 224 | 573 | 63 | -1,707 | -800 | -868 | -40 |
| 60歳以上 | 1,130 | 448 | 371 | 311 | 1,296 | 853 | 333 | 110 | 167 | 406 | -38 | -201 |
| 構成比Ⅰ | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 0~14 歳 | 19 | 0 | 0 | 54 | 10 | 0 | 0 | 40 | 26 | 0 | 0 | 59 |
| 15~39 | 32 | 16 | 42 | 31 | 23 | 6 | 30 | 37 | 39 | 36 | 51 | 29 |
| 40~59 | 34 | 58 | 46 | 4 | 27 | 20 | 45 | 8 | 38 | 130 | 47 | 2 |
| 60歳以上 | 15 | 25 | 12 | 11 | 40 | 74 | 26 | 14 | -4 | -66 | 2 | 10 |
| 構成比Ⅱ | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 100 | 23 | 41 | 36 | 100 | 36 | 40 | 24 | 100 | 14 | 42 | 44 |
| 0~14 歳 | 100 | 0 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 100 |
| 15~39 | 100 | 12 | 54 | 34 | 100 | 10 | 51 | 39 | 100 | 13 | 55 | 32 |
| 40~59 | 100 | 40 | 56 | 4 | 100 | 26 | 67 | 7 | 100 | 47 | 51 | 2 |
| 60歳以上 | 100 | 40 | 33 | 28 | 100 | 66 | 26 | 8 | 100 | 244 | -23 | -121 |

出所：農林業センサス 累年統計

表3-1-2 1985年、2010年 販売農家人口, 農業労働力 女

単位：千人、%

| | 1985 | | | | 2010 | | | | 1985-2010増減 | | | |
|--------|-------|----------|-----------|-----------|-------|----------|-----------|-----------|-------------|----------|-----------|-----------|
| | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 |
| 0~4 歳 | 407 | 0 | 0 | 407 | 95 | 0 | 0 | 95 | -312 | 0 | 0 | -312 |
| 5~9 | 465 | 0 | 0 | 465 | 100 | 0 | 0 | 100 | -365 | 0 | 0 | -365 |
| 10~14 | 548 | 0 | 0 | 548 | 106 | 0 | 0 | 106 | -441 | 0 | 0 | -441 |
| 15~19 | 441 | 1 | 93 | 347 | 148 | 0 | 32 | 115 | -294 | -1 | -61 | -232 |
| 20~24 | 434 | 13 | 116 | 304 | 147 | 2 | 44 | 101 | -287 | -12 | -72 | -204 |
| 25~29 | 449 | 37 | 185 | 226 | 128 | 4 | 49 | 75 | -321 | -33 | -136 | -152 |
| 30~34 | 493 | 95 | 227 | 171 | 121 | 7 | 53 | 61 | -372 | -88 | -174 | -110 |
| 35~39 | 443 | 114 | 296 | 33 | 130 | 12 | 63 | 54 | -314 | -101 | -233 | 21 |
| 40~44 | 421 | 153 | 231 | 36 | 147 | 20 | 79 | 49 | -274 | -134 | -153 | 13 |
| 45~49 | 517 | 222 | 268 | 27 | 187 | 33 | 110 | 44 | -330 | -188 | -159 | 17 |
| 50~54 | 630 | 296 | 305 | 29 | 232 | 58 | 140 | 34 | -399 | -239 | -165 | 5 |
| 55~59 | 660 | 307 | 302 | 51 | 274 | 96 | 154 | 25 | -386 | -211 | -148 | -26 |
| 60~64 | 566 | 235 | 266 | 65 | 257 | 123 | 118 | 16 | -309 | -112 | -148 | -49 |
| 65~69 | 435 | 134 | 217 | 83 | 238 | 142 | 82 | 13 | -197 | 8 | -135 | -70 |
| 70~74 | 448 | 63 | 164 | 222 | 267 | 164 | 81 | 22 | -182 | 101 | -82 | -200 |
| 75~79 | 321 | 22 | 84 | 215 | 267 | 140 | 85 | 43 | -54 | 117 | 1 | -172 |
| 80~84 | 194 | 8 | 43 | 143 | 230 | 77 | 70 | 82 | 36 | 69 | 28 | -61 |
| 85~89 | 59 | 2 | 17 | 40 | 136 | 26 | 38 | 72 | 77 | 24 | 21 | 32 |
| 90歳以上 | 56 | 0 | 0 | 56 | 85 | 0 | 0 | 85 | 29 | 0 | 0 | 29 |
| 合計 | 7,987 | 1,703 | 2,814 | 3,470 | 3,294 | 903 | 1,199 | 1,192 | -4,693 | -800 | -1,616 | -2,278 |
| 0~14 歳 | 1,420 | 0 | 0 | 1,420 | 302 | 0 | 0 | 302 | -1,118 | 0 | 0 | -1,118 |
| 15~39歳 | 2,260 | 261 | 918 | 1,082 | 673 | 26 | 243 | 405 | -1,587 | -235 | -675 | -677 |
| 40~59 | 2,793 | 1,213 | 1,372 | 208 | 840 | 206 | 481 | 152 | -1,388 | -771 | -625 | 9 |
| 60歳以上 | 1,513 | 230 | 524 | 759 | 1,480 | 672 | 474 | 334 | -600 | 207 | -316 | -491 |
| 構成比 I | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 0~14 歳 | 18 | 0 | 0 | 41 | 9 | 0 | 0 | 25 | 24 | 0 | 0 | 49 |
| 15~39 | 28 | 15 | 33 | 31 | 20 | 3 | 20 | 34 | 34 | 29 | 42 | 30 |
| 40~59 | 35 | 71 | 49 | 6 | 25 | 23 | 40 | 13 | 30 | 96 | 39 | 0 |
| 60歳以上 | 19 | 13 | 19 | 22 | 45 | 74 | 40 | 28 | 13 | -26 | 20 | 22 |
| 構成比 II | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 100 | 21 | 35 | 43 | 100 | 27 | 36 | 36 | 100 | 0 | 0 | 100 |
| 0~14 歳 | 100 | 0 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 100 | 100 | 17 | 34 | 49 |
| 15~39 | 100 | 12 | 41 | 48 | 100 | 4 | 36 | 60 | 100 | 0 | 0 | 100 |
| 40~59 | 100 | 43 | 49 | 7 | 100 | 25 | 57 | 18 | 100 | 15 | 43 | 43 |
| 60歳以上 | 100 | 15 | 35 | 50 | 100 | 45 | 32 | 23 | 100 | 56 | 45 | -1 |

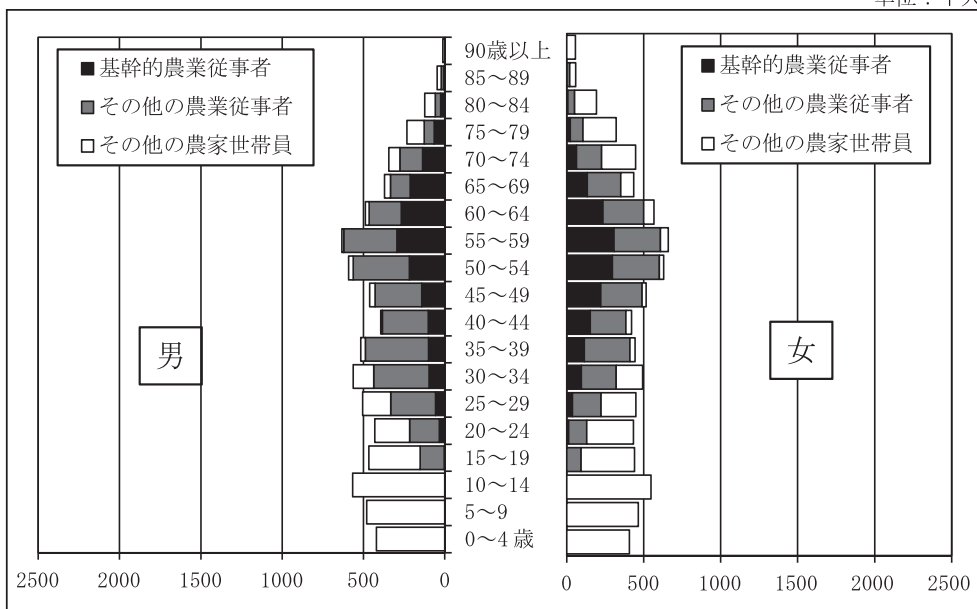
出所： 農林業センサス 累年統計 を基に筆者推計

よび2010年の年齢5歳階級別の農家人口、農業労働力とその変化を示している。また、1985年と2010年の男女別、就業状態別人口とその変化を視覚的に見るため、以上の二つの表を基にして、図3-1-1に1985年の農家人口ピラミッドを、図3-1-2に2010年の農家人口ピラミッドを示している。これらの人口ピラミッドは第2章の人口ピラミッドと視覚的な比較を容易にするため、横軸のスケールは同じにしている。1985年から2010年の25年間の変化の特徴は以下のとおりである。

男子の農家世帯員総数は1985年の765万人から2010年には321万人へと444万人減少(58%減)と1960-85年間に比べ減少が加速している。男子の基幹的農業

図3-1-1 1985年 農家世帯員（販売農家）の人口ピラミッド（就業状態別）

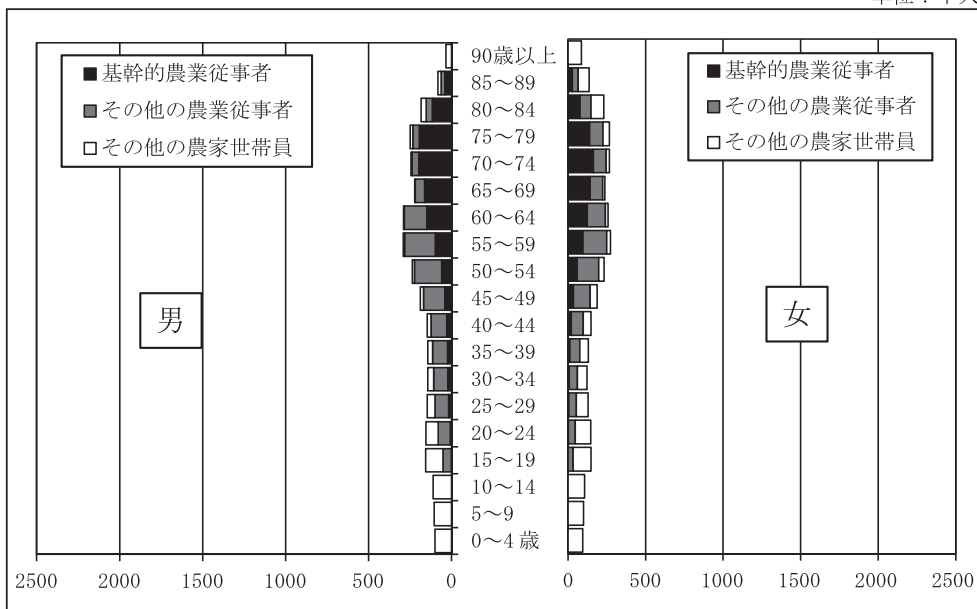
単位：千人



注：表3-1-1と表3-1-2の1985年のデータを基に作図

図3-1-2 2010年 農家世帯員（販売農家）の人口ピラミッド（就業状態別）

単位：千人



注：表3-1-1と表3-1-2の2010年のデータを基に作図

者は176万人から115万人へ61万人減（35%減）で1960-85年より減速している。女子の世帯員総数は799万人から329万人へと469万人減少（58%減）したが、

男子と同様1960-85年間よりも減少が減速している。女子の基幹的農業従事者は170万人から90万人へ80万人減少（47%減）となり、女子も減少率が小さくなっている。1960-1985年間とは異なり、男女とも農家世帯員の減少が著しく、基幹的農業従事者の減少は逆に減速している。基幹的農業従事者の減少率は1960-85年と同様に女子が男子を上回り、基幹的労働者の女子比率は49%から44%へと低下している。

1985年の年齢階級別農家世帯員数を見ると、男子は70-74歳層まで、女子は75-79歳までの全年齢階級で減少し、これより高年齢階級で増加となっている。また、農家世帯員は60歳以上の比率が男子では1985年の15%から、2010年には40%へ、女子も19%から45%へといずれも大幅に上昇している。

基幹的農業従事者では男子では60歳以上の者は1985年には25%であるが、2010年には75%へと上昇し、女子もこれが13%から74%へと急上昇している。文字通り日本の農業労働力の基幹となる労働力は他産業では一般的に定年年齢とされる60歳以上の労働力が男女とも4分の3を占めるに至っている。

その他の農業従事者の男子は年齢別増減では農家世帯員とほぼ同様な増減をしており、80歳未満の全年齢階級で減少し、80歳以上ではわずかながら増加している。女子のその他の農業従事者は75歳未満の全年齢階級で減少し、75歳以上で増加している。女子のその他の世帯員は35歳未満と55歳から84歳以下までの年齢階級で減少しているが、35歳から54歳までと85歳以上で増加しているのは、出産、育児期の休業と老後の仕事からの男子より早くリタイアし、家事専従となるためと考えられる。前者はM字カーブと知られている女子の就業率の年齢効果と見られる。

なお、20～24歳の年齢階級より下ではすべての農家世帯員が大幅に減少しているが、このかなりの割合で出生数の減少によるものとみられ、第2節の出生、

表3-1-3 1985-2010 女20-39歳農家人口（千人）に対する0-4歳児合計出生率

| | | 1985 | 1990 | 1995 | 2000 | 2005 | 2010 |
|-----------------|------|-------|-------|-------|------|------|------|
| 女20-39歳人口 | (千人) | 1,819 | 1,523 | 1,205 | 973 | 726 | 526 |
| 0-4歳児数 | 男 | 420 | 360 | 277 | 228 | 146 | 99 |
| | 女 | 407 | 350 | 267 | 216 | 140 | 95 |
| 対5年前女20-39歳人口 | 男 | | 0.20 | 0.18 | 0.19 | 0.15 | 0.14 |
| 0-4歳児合計の出生率 (%) | 女 | | 0.19 | 0.18 | 0.18 | 0.14 | 0.13 |

出所、注：表2-1-4に同じ

死亡、社会的移動など事由別の増減推計で説明する。

1985年から2010年の間、経済成長の停滞期であるにもかかわらず、農家人口、農業労働力は激減し、残された基幹農業従事者も、そのほとんどが高齢者となり、その人達もやがて年老いてこの世を去るとき、誰が農業、食料生産を担うのだろうか。次節では1985年から2010年までの間の農業就業状態別に農家世帯員の増減の事由について詳しく見てみよう。

(2) 1985年～2010年の出生、死亡、社会的(就業状態)移動

この節では1985年から2010年までの25年間の農家世帯員の増減の要因について、農業就業状態別、年齢別に分析する。

表3-1-3に1985年から2010年にかけての、第2章の表2-1-4に対応する女子農家世帯員の5年間合計出生率の推移を示した。この表を見ると、1985年から2010年まで農家世帯における男子の0-4歳人口は1990年の360千人から2010年には99千人へと約4分の1へ、女子の0-4歳人口は1990年の350千人から2010年には95千人へと女子も20年間で約4分の1へと1960-1985年を上回る速度で激減して

表3-1-4 1985-2010年間 死亡率(対1985年人口比)

| 1985 年齢 | 単位: % | |
|---------|-------|------|
| | 男 | 女 |
| 0～4 歳 | 0.0 | 0.0 |
| 5～9 | 0.9 | 0.5 |
| 10～14 | 1.6 | 1.4 |
| 15～19 | 2.4 | 1.9 |
| 20～24 | 2.1 | 1.8 |
| 25～29 | 2.1 | 1.9 |
| 30～34 | 2.4 | 2.3 |
| 35～39 | 3.2 | 3.0 |
| 40～44 | 3.7 | 3.3 |
| 45～49 | 4.1 | 3.3 |
| 50～54 | 4.7 | 4.1 |
| 55～59 | 7.0 | 4.1 |
| 60～64 | 9.1 | 4.5 |
| 65～69 | 13.5 | 6.4 |
| 70～74 | 20.5 | 9.8 |
| 75～79 | 33.1 | 16.2 |
| 80～84 | 49.5 | 26.4 |
| 85～89 | 68.4 | 44.2 |
| 90歳以上 | 82.4 | 56.1 |

注：1985年から2010年までの国勢調査を基に筆者作成

いる。20-39歳の女子人口は1985年の1819千人から2005年の726千人へ60%に減少し、5年間の出生率は、男子が0.20から0.14へ、女子が0.19から0.13へといずれも70%に減少している。寄与率としては20-39歳女子人口の減少が約6割で、出生率の低下約4割を上回っている点は1960-1985年の変化と同様である。

1985-2010年の経済成長の停滞期にあっても、女性で20-39歳という出産期の農家世帯員の減少スピードは、高度経済成長期の1960-1985年の期間と変わらず、また出生率も低下を続けており、次代の農家を引き継ぐべき20歳以下の農家人口が急速に減少している。その原因は、何よりも出産期の女性が1985年の182万人から2010年には53万人へと、25年間に3分の1以下に急減していることであり、加えて出生率も低下しているためである。農家の男性が結婚相手を探せないという不幸は、やがて数十年後には日本農業の担い手の候補生すら消滅する危機につながる。

表3-1-5に1985年-2010年の新規就農の状況について示した。この表に見るように、男子の新規就農比率は1985年の4.1%から2010年に3.2%へと低下している。これに14-19歳の男子農家人口の大幅な減少が重なり、男子の20-24歳の基幹的農業従事者は1985年の34千人から2010年には8千人へと4分の1に激減している。女子の新規就農率は1985年の1.2%から0.7%に低下し、女子の20-24歳の基幹的農業従事者も1985年の13千人から2010年には2千人へ激減している。新規就農、新規補充について第2章の分析で、新規就農とか新規補充という概念はその後の長期の就農を前提とした概念であるが、1960-1985年の若年層の大量の脱農は、この概念による分析を無意味にしていると述べたが、この状況は1985-2010年にさらに進行している。

表3-1-1に示した男子の1985年から2010年の間の農業従事状態別農家人口の増減の事由別内訳を表3-1-6に、その増減率を表3-1-7に示している。

表3-1-5 1985-2010 20-24歳の基幹的農業者への就農率

| | | 1985 | 1990 | 1995 | 2000 | 2005 | 2010 |
|---------------------------------|---|------|------|------|------|------|------|
| 14-19歳農家世帯員 (千人) | 男 | 467 | 415 | 379 | 340 | 251 | 155 |
| | 女 | 441 | 392 | 357 | 325 | 236 | 148 |
| 20-24歳基幹的農業者 (千人) | 男 | 34 | 19 | 11 | 13 | 18 | 8 |
| | 女 | 13 | 5 | 2 | 3 | 5 | 2 |
| 14-19歳農家世帯員の5年後の基幹的農業者への就農率 (%) | 男 | | 4.1 | 2.6 | 3.3 | 5.3 | 3.2 |
| | 女 | | 1.2 | 0.6 | 0.7 | 1.6 | 0.7 |

出所、注：表2-1-5に同じ

表3-1-6 1985-2010 農業従事状態別農家人口(男)の事由別増減

単位：千人、%

| 2010年齢 | 1985-2010 出生数増減 | | | | 1985-2010 死亡数 | | | | 1985-2010 社会的移動 | | | |
|--------|-----------------|----------|-----------|-----------|---------------|----------|-----------|-----------|-----------------|----------|-----------|-----------|
| | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 |
| 0~4 歳 | -321 | 0 | 0 | -321 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 5~9 | -273 | 0 | 0 | -273 | -1 | 0 | 0 | -1 | -102 | 0 | 0 | -102 |
| 10~14 | -192 | 0 | 0 | -192 | -4 | 0 | 0 | -4 | -260 | 0 | 0 | -260 |
| 15~19 | -143 | -1 | -46 | -96 | -7 | 0 | -2 | -4 | -163 | -3 | -48 | -112 |
| 20~24 | -60 | -3 | -28 | -29 | -8 | 0 | -4 | -4 | -209 | -22 | -80 | -106 |
| 25~29 | | | | | -9 | -1 | -5 | -3 | -350 | -39 | -189 | -122 |
| 30~34 | | | | | -12 | -2 | -7 | -3 | -409 | -73 | -248 | -88 |
| 35~39 | | | | | -18 | -3 | -11 | -4 | -356 | -73 | -287 | 4 |
| 40~44 | | | | | -17 | -3 | -11 | -3 | -230 | -70 | -176 | 15 |
| 45~49 | | | | | -17 | -4 | -12 | -2 | -257 | -98 | -147 | -12 |
| 50~54 | | | | | -24 | -6 | -16 | -1 | -332 | -153 | -167 | -13 |
| 55~59 | | | | | -39 | -13 | -25 | -1 | -303 | -184 | -117 | -2 |
| 60~64 | | | | | -47 | -24 | -22 | -1 | -153 | -96 | -40 | -17 |
| 65~69 | | | -3,226 | | -53 | -39 | -14 | -1 | -97 | -14 | -51 | -33 |
| 70~74 | | | | | -94 | -76 | -16 | -3 | -5 | 137 | -84 | -58 |
| 75~79 | | | | | -196 | -152 | -31 | -12 | 211 | 280 | 9 | -78 |
| 80~84 | | | | | -313 | -197 | -64 | -52 | 371 | 287 | 69 | 16 |
| 85~89 | | | | | -334 | -161 | -99 | -74 | 368 | 193 | 108 | 68 |
| 90歳以上 | | | | | -305 | 0 | 0 | -305 | 326 | 0 | 0 | 326 |
| 合計 | -989 | -4 | -74 | -911 | -1,498 | -682 | -340 | -476 | -1,949 | 72 | -1,448 | -573 |
| 0~14 歳 | -786 | 0 | 0 | -786 | -5 | 0 | 0 | -5 | -362 | 0 | 0 | -362 |
| 15~39歳 | -203 | -4 | -74 | -125 | -53 | -6 | -29 | -17 | -1,487 | -210 | -853 | -424 |
| 40~59 | 0 | 0 | 0 | 0 | -98 | -26 | -65 | -7 | -1,122 | -505 | -606 | -10 |
| 60歳以上 | 0 | 0 | 0 | 0 | -1,343 | -650 | -246 | -447 | 1,021 | 787 | 11 | 223 |
| 構成比 I | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 0~14 歳 | 80 | 0 | 0 | 86 | 0 | 0 | 0 | 1 | 19 | 0 | 0 | 63 |
| 15~39 | 20 | 100 | 100 | 14 | 4 | 1 | 9 | 4 | 76 | -290 | 59 | 74 |
| 40~59 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 4 | 19 | 1 | 58 | -699 | 42 | 2 |
| 60歳以上 | 0 | 0 | 0 | 0 | 90 | 95 | 72 | 94 | -52 | 1,090 | -1 | -39 |
| 構成比 II | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 100 | 0 | 8 | 92 | 100 | 46 | 23 | 32 | 100 | -4 | 74 | 29 |
| 0~14 歳 | 100 | 0 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 100 |
| 15~39 | 100 | 2 | 37 | 61 | 100 | 12 | 55 | 33 | 100 | 14 | 57 | 29 |
| 40~59 | | | | | 100 | 27 | 66 | 7 | 100 | 45 | 54 | 1 |
| 60歳以上 | | | | | 100 | 48 | 18 | 33 | 100 | 77 | 1 | 22 |

出所：表3-1-1を基に筆者作成

表3-1-7 1985-2010年間の 農業従事状態別農家人口(男)増減率

単位：%

| 1985年齢 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 |
|--------|-------|----------|-----------|-----------|
| 総数 | -58 | -35 | -59 | -72 |
| 0~14 歳 | -15 | 0 | 0 | -42 |
| 15~39歳 | -23 | -12 | -30 | -21 |
| 40~59 | -22 | -45 | -28 | -1 |
| 60歳以上 | 2 | 23 | -1 | -7 |

出所：表3-1-1を基に筆者作成

男子の農家世帯員は1985年から2010年の間に4,436千人減少したが、表3-1-5によりその内訳を見ると、出生数の減少が989千人、死亡が1,498千人、農家外

表3-1-8 1985-2010年間の 農業従事状態別農家人口(男)増減率の事由別内訳

単位：％

| 1985年 年齢 | 1985-2010 出生数増減 | | | | 1985-2,010死亡 | | | | 1985-2010 社会的移動 | | | |
|----------|-----------------|----------|-----------|-----------|--------------|----------|-----------|-----------|-----------------|----------|-----------|-----------|
| | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 |
| 総数 | -13 | 0 | -2 | -33 | -20 | -39 | -11 | -17 | -25 | 4 | -46 | -21 |
| 0~14 歳 | -10 | 0 | 0 | -29 | 0 | 0 | 0 | 0 | -5 | 0 | 0 | -13 |
| 15~39歳 | -3 | 0 | -2 | -5 | -1 | 0 | -1 | -1 | -19 | -12 | -27 | -16 |
| 40~59 | 0 | 0 | 0 | 0 | -1 | -1 | -2 | 0 | -15 | -29 | -19 | 0 |
| 60歳以上 | 0 | 0 | 0 | 0 | -18 | -37 | -8 | -16 | 13 | 45 | 0 | 8 |

出所：表3-1-1、表3-1-3を基に筆者作成

との社会的移動の純流出が1,949千人であり、社会的移動の純流失が最大で、農家世帯員の減少を100%とすると出生数の減少が22%、死亡数の増加が34%で過半が出生数の減少と死亡によっている。離農就職など社会的移動の寄与は44%で、好況、不況など時代の経済状況の影響を受ける「社会的移動」の農家世帯員の増減に占める割合は小さくなっている。

死亡は年齢構成、出生数は出産期の女性の数、出生率はほとんど初期状態によって決まり、「社会的移動」も女性の結婚による農外流出なども含まれていることを考えると、農家人口は、時代の経済状況の影響の如何に関わらず、今後とも急速な減少が続くことは避けられないと考えられる。

表3-1-7に示した男子の農家人口58%減の内訳を表3-1-8で見ると出生数が13%減、死亡が20%減、社会的移動が25%で、1960-1985年間の社会的移動による流出入が、年齢階級間でかなり相殺されていたのに対し、1985-2010年間の社会的移動では青・壮年層の農外への流出が、老年層の流入を大幅に上回っている。

表3-1-6で、男子の農家世帯員の社会的移動を年齢別に見ると、74歳以下で3,226千人の流出超過、75歳以上で1,227千人の流入超過、合計では1,949千人の流出超過であり、流出入バランスは1960-1985年とは逆転し、大幅な流出超過となった。他産業への青壮年の労働力の供給、リタイア後の老年者の受け入れという構造は同じであるが、他産業リタイア後の受け入れが少なくなったのである⁷⁾。

男子の基幹的農業従事者は1985年の1,762千人から2,010年には1,148千人へと614千人の減少で、35%減と1960-1985年より減速した。内12%減が15-39歳、45%減が40-59歳、23%増が60歳以上となっている。

表3-1-7と表3-1-8で基幹的農業従事者の減少を事由別に見ると、35%の減少

表3-1-9 1985-2010 農業従事状態別農家人口（女）の事由別増減

単位：千人、%

| 2010年年齢 | 1985-2010 出生数増減 | | | | 1985-2010 死亡 | | | | 1985-2010社会的移動 | | | |
|---------|-----------------|----------|-----------|-----------|--------------|----------|-----------|-----------|----------------|----------|-----------|-----------|
| | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 |
| 0～4 歳 | -312 | 0 | 0 | -312 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 5～9 | -267 | 0 | 0 | -267 | -1 | 0 | 0 | -1 | -97 | 0 | 0 | -97 |
| 10～14 | -191 | 0 | 0 | -191 | -3 | 0 | 0 | -3 | -247 | 0 | 0 | -247 |
| 15～19 | -140 | 0 | -31 | -109 | -5 | 0 | -1 | -4 | -148 | -1 | -29 | -119 |
| 20～24 | -58 | -1 | -17 | -40 | -6 | 0 | -2 | -4 | -223 | -11 | -53 | -160 |
| 25～29 | | | | | -8 | 0 | -3 | -4 | -313 | -33 | -133 | -147 |
| 30～34 | | | | | -11 | -1 | -5 | -5 | -361 | -87 | -169 | -105 |
| 35～39 | | | | | -16 | -2 | -8 | -7 | -297 | -100 | -225 | 28 |
| 40～44 | | | | | -15 | -2 | -8 | -5 | -259 | -132 | -145 | 18 |
| 45～49 | | | | | -14 | -3 | -8 | -3 | -315 | -185 | -150 | 21 |
| 50～54 | | | | | -19 | -5 | -11 | -3 | -380 | -234 | -154 | 8 |
| 55～59 | | | | | -20 | -7 | -11 | -2 | -365 | -204 | -137 | -25 |
| 60～64 | | | | | -20 | -10 | -9 | -1 | -289 | -103 | -138 | -48 |
| 65～69 | | | | | -27 | -16 | -9 | -2 | -170 | 24 | -126 | -68 |
| 70～74 | | | | | -51 | -31 | -15 | -4 | -131 | 132 | -67 | -196 |
| 75～79 | | | | | -102 | -53 | -32 | -16 | 48 | 170 | 33 | -156 |
| 80～84 | | | | | -174 | -58 | -53 | -62 | 210 | 127 | 81 | 1 |
| 85～89 | | | | | -250 | -49 | -70 | -132 | 327 | 73 | 91 | 164 |
| 90歳以上 | | | | | -244 | 0 | 0 | -244 | 273 | 0 | 0 | 273 |
| 合計 | -968 | -1 | -48 | -919 | -985 | -236 | -247 | -502 | -2,740 | -563 | -1,321 | -856 |
| 0～14 歳 | -770 | 0 | 0 | -770 | -4 | 0 | 0 | -4 | -345 | 0 | 0 | -345 |
| 15～39歳 | -198 | -1 | -48 | -149 | -46 | -3 | -19 | -25 | -1,343 | -232 | -608 | -503 |
| 40～59 | 0 | 0 | 0 | 0 | -68 | -16 | -39 | -13 | -1,320 | -755 | -586 | 22 |
| 60歳以上 | 0 | 0 | 0 | 0 | -868 | -217 | -189 | -461 | 268 | 424 | -126 | -30 |
| 構成比Ⅰ | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 0～14 歳 | 80 | 0 | 0 | 84 | 0 | 0 | 0 | 1 | 13 | 0 | 0 | 40 |
| 15～39 | 20 | 100 | 100 | 16 | 5 | 1 | 8 | 5 | 49 | 41 | 46 | 59 |
| 40～59 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 7 | 16 | 3 | 48 | 134 | 44 | -3 |
| 60歳以上 | 0 | 0 | 0 | 0 | 88 | 92 | 77 | 92 | -10 | -75 | 10 | 3 |
| 構成比Ⅱ | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 100 | 0 | 5 | 95 | 100 | 24 | 25 | 51 | 100 | 21 | 48 | 31 |
| 0～14 歳 | 100 | 0 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 100 |
| 15～39 | 100 | 0 | 24 | 75 | 100 | 5 | 41 | 54 | 100 | 17 | 45 | 37 |
| 40～59 | | | | | 100 | 24 | 57 | 19 | 100 | 57 | 44 | -2 |
| 60歳以上 | | | | | 100 | 25 | 22 | 53 | 100 | 158 | -47 | -11 |

出所：表3-1-2を基に筆者作成

率の内、死亡が39%減、その内37%減が60歳以上であり、社会的移動が60歳未満の41%減と60歳以上の45%増で差引4%増となっている。男子の基幹的農業者は1960-1985年で半分以下となったが、1985年から2010年の間に70歳未満の全年齢階層で減少し、1985-2010年間にさらに半分以下になった。

「その他の農業従事者」「その他の農家世帯員」もほぼすべての年齢階級で「社会的移動」が流出超過となっていることは、1985年までに見られた農家世帯員の就業状態移動は農家内での移動のウエイトが高いという構造が変化したことを示すとみられる。

表3-1-9に女子の農業従事状態別農家人口の事由別増減数を、表3-1-10にそ

表3-1-10 1985-2010年間の 農業従事状態別農家人口(女)増減率

単位：%

| 1985年齢 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 |
|--------|-------|----------|-----------|-----------|
| 総数 | -59 | -47 | -57 | -66 |
| 0～14 歳 | -14 | 0 | 0 | -32 |
| 15～39歳 | -20 | -14 | -24 | -20 |
| 40～59 | -17 | -45 | -22 | 0 |
| 60歳以上 | -8 | 12 | -11 | -14 |

出所：表3-1-2を基に筆者作成

表3-1-11 1985-2010年間の 農業従事状態別農家人口(女)増減率の事由別内訳

| 1985年齢 | 1985-2010出生数増減 | | | | 1985-2010死亡 | | | | 1985-2010社会的移動 | | | |
|--------|----------------|----------|-----------|-----------|-------------|----------|-----------|-----------|----------------|----------|-----------|-----------|
| | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 | 農家世帯員 | 基幹的農業従事者 | その他の農業従事者 | その他の農家世帯員 |
| 総数 | -12 | 0 | -2 | -26 | -12 | -14 | -9 | -14 | -34 | -33 | -47 | -25 |
| 0～14 歳 | -10 | 0 | 0 | -22 | 0 | 0 | 0 | 0 | -4 | 0 | 0 | -10 |
| 15～39歳 | -2 | 0 | -2 | -4 | -1 | 0 | -1 | -1 | -17 | -14 | -22 | -15 |
| 40～59 | 0 | 0 | 0 | 0 | -1 | -1 | -1 | 0 | -17 | -44 | -21 | 1 |
| 60歳以上 | 0 | 0 | 0 | 0 | -11 | -13 | -7 | -13 | 3 | 25 | -4 | -1 |

注：表3-1-2、表3-1-9を基に筆者作成

の従事状態別増減率を、表3-1-11にその事由別増減率を示している。

女子の農家世帯員は1985年から2010年の間に男子を上回る4,693千人減少した(表3-1-2)。表3-1-9でみるとおり、出生数の減少は968千人と男子と大差ない。他方、死亡は985千人と男子の1,498千人よりかなり少なく、1960-1985年の間と同様に、男子を上回る女子の長寿化が進行している。女子の農家世帯員の減少の21%が出生数の減少、21%が死亡数の増加で説明され、社会的移動による減少は2,740千人で女子の農家世帯員の減少の58%を占めている。男子と同様に、女子農家人口の社会的移動も農家内部の就業状態の移動が主であった状況から、1985-2010年間には農外への流出に変わってきている⁸⁾。離農、就職、結婚など社会的移動による女子の農外への純流出は84歳以下の全年齢階級に及んでいる。女子の農家世帯員の社会的移動による流出は、かなりの部分は結婚に伴う農家外への純流出と考えられる。この出産期の女子の農家外流出は1960-1985年間から引続いて、農家の「嫁不足」となり、出生数の減少を招き、農家世帯員の長期的な減少の最大の要因となっている。

表3-1-10により女子の農家世帯員の農業就業状態別増減率を、その内訳を表3-1-11で見ると、1985-2010年間の女子農家世帯員の減少率は59%と男子とほとんど同じである。うち出生数の減少が12%、死亡が12%、社会的移動による

流出が34%となっている。女子の世帯員数の減少では、結婚に伴う農家外流出が大きなウェイトを占めている。1985-2010年になると農家世帯内の労働力の移動は結婚に伴う移動はもちろんであるが、65歳以上の年齢階級の基幹的農業従事者への帰農、農業従事者への環流、85歳以上へのリタイアなどによる流入など70歳以上の流出入以外は、すべての年齢階級の農業就業状態別の社会的移動が流出超過であり、農家外との流出入が主になってきたことを示している。

(3) 2025年、2040年の農家人口、農家労働力の暫定将来推計

本稿のこれまでの分析結果を踏まえて、一定の仮定条件の下に、コーホート分析の考え方に沿って、将来推計を行うことができる。そこで、2010年の農家人口と農業労働力を初期条件とし、直近の2005年から2010年のコーホート変化率や出生率、死亡率が変化しないなどの仮定の下に、順次2040年まで5年ごとに、男女別に農家世帯員、基幹的農業従事者などの就業状態別、年齢別の人数の5年ごとの暫定的な将来推計を行った。

この暫定的な将来推計結果によれば、販売農家の農家世帯員の男子は2010年の321万人から2025年に143万人、2040年に56万人へと減少し、女子は2010年の329万人から2025年に143万人、2040年に56万人へと減少する。

基幹的農業者の男子は2010年の115万人から2025年に45万人、2040年に21万人へと減少し、女子は2010年の90万人から2025年に42万人、2040年には14万人へと減少する。この推計結果は、2010年に男女とも基幹的農業従事者の約4分の3がすでに60歳以上であることを考えると、その加齢効果を考えただけでも容易に予想できるものである。

ところで、政府は食料・農業・農村基本計画（2027年3月31日閣議決定）〔10〕において、2025年の農業就業者（基幹的農業者と常用雇用労働者）の趨勢値を男女合計170万人と試算しており、本稿の暫定推計における男女合計の基幹的農業者170万人と比べ、常用労働者を勘案すれば控えめの見通しと考えられる。しかし、同計画では「農業の内外からの青年層の新規就農により、若い農業者が定着ベースで倍増することを前提とすれば、年齢構成のアンバランスが改善され、平成37年には60歳代以下で90万人以上を確保することが可能となる。」と60歳以下の基幹的農業従事者の趨勢値47万人の2倍近い展望値を掲げている。

本稿の分析で見てきたように、農業労働力とりわけ若い労働力の流出は過去半世紀にわたり続いてきた根強い趨勢である。特に農家女子に結婚の相手を政策によって農業就業者とすることはほとんど不可能な状況下で、男子の農業就業者が結婚相手を見つけることが難しくなっても、希望の持てる状況にできるとも思えない。安易な展望をベースとするのではなく、避けがたい若年農業労働力の流出と農業労働力のさらなる高齢化へ如何に対応し、日本の食料生産を確保すべきかを真剣に議論することが重要だと考えられる。

5. おわりに—まとめと今後の課題—

本稿では、1960年以降の過去半世紀の日本の農家人口、農業労働力の変化について、コーホート分析の考え方に沿って、過去半世紀の変動を分析した。分析結果の要点は下のとおりである。

(1) 1960年から1985年の間における25年間の農家人口、農業労働力の変化の特徴として、以下を確認した。

第1に、男子の基幹的農業者が552万人から約3分の1の187万人へ激減し、女子の基幹的農業従事者も624万人から183万人へ男子以上に激減し、男女とも農家内における就業状態の移動つまり兼業化の深化が進んだ。

第2に、年齢階級別に見ると、基幹的労働者は男女とも青壮年層を中心にほぼ全年齢階級で流出超過となり、農業労働力の高齢化が進んだ。

第3に、青壮年層の農家労働力の大幅な流出により、新規就農を農業労働力の補充として問題にする意味は薄れた。

第4に、若年年齢階級の農家世帯員の大幅な流出超過により、農家人口の構成からはベビーブーマーは1985年までに消滅した。

第5に、結婚などによる20歳台、30歳台の女子の大幅な農外流出が進み、出生率の低下も加わって、25歳以下の次代を担う農家世帯員の急減が続いている。

(2) 1985年から新定義の販売農家の農家人口、農業労働力データに基づき、1985年から2010年までの25年間の農家人口、農業労働力の変化の特徴として、以下を確認した。

第1に、男子の基幹的農業者は176万人から115万人へ35%減少し、女子の基

幹的農業従事者も170万人から90万人へ47%減少したため、男女比率が逆転した。

第2に、1960-1985年間とは異なり、男女とも農家世帯員の減少が著しく、基幹的農業従事者の減少は逆に減速するとともに、農業労働力の移動が農家内部の就業状態の移動が主という構造が変化し、基幹的農業従事者の増減と農家世帯員の流入が並行するようになった。

第3に、基幹的農業従事者は男女とも急上昇し、他産業では一般的に定年年齢とされる60歳以上の労働力男女とも4分の3を占めるに至った。

第4に、出産期女子人口の急減と出生率の低下が1960-1985年の間に引き続き進んでおり、新卒者の就農率がゼロ%に近づきつつあることと相まって、将来の農家労働力の源泉が枯渇に近づいている。

第5に、1985年から2010年の間、経済成長の停滞期であるにもかかわらず、農家人口、農業労働力が激減し、残された基幹農業従事者もそのほとんどが高齢者となり、今後他産業に転換可能な労働力のプールは底をつきつつある。

(3) 以上の過去半世紀の分析を踏まえて、農家人口、農業労働力について、暫定的な将来推計を行った。この暫定的な将来推計結果は、政府の食料・農業・農村基本計画（2027年3月31日閣議決定）における2025年の農業労働力の趨勢値と大差ない。政府は同計画で、農業構造の展望として、「農業の内外からの青年層の新規就農により、若い農業者が定着ベースで倍増することを前提」として極めて楽観的な展望を示している。重要なのは、本稿で見てきた不可避の趨勢を前提として、如何に食料・農業生産を維持、増強するのか、対応策を考えることではなかろうか。また、2040年の暫定将来推計は、農業労働力の急減はさらにつづき、2010年の2割以下まで減少することを示している。このような長期的展望を踏まえて対応を考えることが重要と考えられる。

(4) 今後発表される2015年農業センサスのデータにより、今回の分析結果を検証するとともに、その成果を踏まえて、将来推計の方法、データ、仮定条件を再検討して、本格的な将来推計を行い、その結果を基に将来の日本農業のあり方を考察することは今後の課題としたい。その結果を前提として、農業への株式会社の参入問題を含めて農業企業体の役割と位置づけ、技術変化と大規模農業の展望、高齢者の帰農環流と高齢者農業および自給的農業の位置づけなど

の問題について考察を深めることを今後の課題としたい。

謝 辞

本稿における人口ピラミッドの作図および原稿、図表の整合性のチェックでは、中山里美氏を煩わせた。記して感謝の意を表する。

注

- 1) このコーホート分析の説明は、梶井〔1〕における昭和25年の国勢調査の就業人口を例示した説明を1960年の農業センサスの基幹的農業者の調査結果に置き換えたものである。
- 2) 統計的な三つの効果の分析は、推測統計における「識別」問題の例であり、年齢、コーホート、時代の効果を分離する統計的に厳密な解決法はない。
- 3) 農家世帯員の就業移動は、昭和38年―平成2年各年の「農家就業動向調査報告」これを包摂した平成3年以降の各年の「農業構造動態統計」に示されている。
- 4) 「社会的移動」には比較時点と基準時点の出生数との増減、死亡以外のすべてが含まれており、特に5歳から25歳までの各年齢階級については、基準時点における0-4歳人口と比較年齢階級の人数との差(実質的には出生数の増減)も含まれていることに留意する必要がある。
- 5) 基幹的農業労働者のリタイアがなくなったわけではないが、1960年代以降の農業労働力は、男女とも65歳以上のすべての年齢階級で帰農超過となり、農業就業者のリタイアや補充率を論じた梶井〔1〕や並木〔9〕が対象とした1960年までの農業労働力の状況とは、全く異なった局面に入ったと見られる。死ぬ直前まで農業で働き続ける農業者は幸せなのか不幸なのか、筆者は「幸せ」であると考えたい。
- 6) 農家の定義の変更は経済社会の進化の中で、社会一般の「農家」に対する認識の変化を反映していると考えれば、定義の変更を承知の上で、直接比較することが誤りとも言えない。
- 7) 注5)を参照
- 8) 25歳以下の「社会的移動」には実質的には出生数の増減とすべき数も含まれており、この点を考慮しても社会的移動が主になったと言えるかどうかを吟味する必要があるが、今後の課題としたい。

引用文献（引用順）

- [1] 梶井 功、「労働力-新しい生産力形成への模索」、石渡貞雄、阪本楠彦編『日本農業の生産力構造』第2章、お茶の水書房、1965年
- [2] I・B. トイバー、毎日新聞社人口問題調査会訳、『日本の人口』、毎日新聞社人口問題調査会、1964年
- [3] N. D. グレン、藤田英典訳「コーホート分析法」、朝倉書店、1984年
- [4] 森島 賢「食料需要の動向」、『農業経済研究』第56巻第2号、日本農業経済学会、1984年
- [5] 森宏編『食料消費のコーホート分析-年齢・世代・時代』専修大学出版局、2001年
- [6] 石橋喜美子「年齢階層別にみた生鮮野菜の消費動向と需要予測」『農業経営研究』35巻1号、1997年
- [7] 松久 勉「農業地域類型別市町村人口の将来推計 農村の農業地域類型別市町村人口の将来推計- 旧市町村を中心に」『平成24～26年度「農村集落の維持・再生に関する研究」報告書-』農林水産政策研究所、2015年
- [8] 内閣府統計局 政府統計の総合窓口e-STAT <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do>
- [9] 並木正吉、『農村は変わる』岩波書店、1960年
- [10] 食料・農業・農村基本計画（2027年3月31日閣議決定）、農林水産省ホームページ、2015年